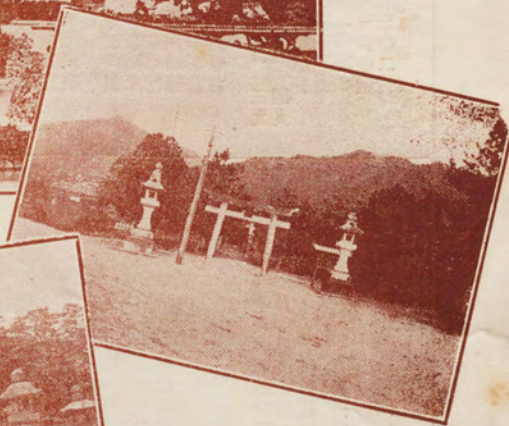


報月萩

號六十三第



號月三年六和昭

行發町萩縣口山



昭和六年三月十三日印刷納本
昭和五年五月六日第三種郵便物認可
昭
和
六
年
三
月
十
五
日
行
（
每
月
一
回
十
五
日
發
行
）

第 三 十 六 號



目次

時事提唱	至	自
庶政行政	至	自
學	至	自
旗	至	自
產	至	自

時事提唱

世界大戰後に於ける經濟界の不振が吾邊境にまで波及せし秋に膺り金輸出解禁のことは行はれたる等の爲社會生活上の問題は一層深刻化し來り農産物の賣價は其の生産費を償ふにも足らず又水産物を以て誇りとする吾萩町の如きは漁業自體の不成績に加ふるに魚價の低落も亦著しく従つて農山漁村を顧客の大部分とする萩町の商取引に於ても由來相當の悪影響を蒙りたる時に際し萩の特産物夏蜜柑は未曾有の寒傷に依り殆ど皆損を唱へらるゝの悲運に遭遇せしことは眞に痛嘆に堪へざる所なりとす惟ふに吾萩町としては近く山陰本線の全通の事あり之れ蓋し開府三百年以來の萩の勃興とも謂ふべきものなるに依り之に應ずる爲には萩町自治團體として能ふ限り積極的の施設を爲さざる可からざるに在りと雖如斯一般的不景氣に加ふるに萩獨特の大惨害を蒙りたることよりして稽ふるときは此の場合寧ろ年來の積極主義を放棄し専ら民力を休養して他日に伸ふる所あらしむるに若かずと爲し昭和六年度の萩町歳計は所謂月並式の緊縮を超越して歳出豫算の各費目に涉り大なる節約を斷行し特別税戸數割に在りては昭和五年度に比し一戸當平均額に於て金參圓貳拾八錢壹厘を輕減することとして其の豫算を編成し目下町會に附議中に在り之を諒せられむことを

今春に於ける夏蜜柑の惨害は園主に對し相當大なる刺戟を與へたることに動機となり多年の間之が栽培に付經驗を有する園主中に於ても其の樹勢の保護並收穫の保障を圖る爲には少くとも寒害を蒙らざるに於て柑果の大半を摘採して之を貯藏し若くは加工生産の用に供せむとする希望を有する者隨所に起りたるを窺ひ知るが如きは時代に即したる産業の合理化とも謂ふべく之れ即ち禍を轉じて福と爲すの道理にも協ひ眞に

財政經濟

軍	至	自
財	至	自
政	至	自
經	至	自
濟	至	自
通	至	自
土	至	自
社	至	自
衛	至	自
人	至	自
雜	至	自

悦ぶべきことなりとす仍て吾萩町としては此の好機會を捉へ夏蜜柑の加工に關し最近に於ける歐米の新智識を併有し斯業上最も造詣の深き専門家を招聘して一般希望者の爲研究を遂ぐることにし今回萩町會の協賛を経たるに依り近々の内より之を實施することとせり而して之が研究の種目等に付ては固より商品として販賣上相當の見込みあるものを選ばざるべからざるに依り是等のことは専門技術者の來萩を俟ち決定することとせるも既に萩町内に於て相當研究を重ねつゝある者尠からざるべく推知せらるゝを以て相互に此の研究機關を利用し特産夏蜜柑の商品化に付有意義の施設計劃を樹立することとし尙ほ本事業は町費及び縣費の補助を引當と爲し町の一時的のものとして之を行ふこととせるに依り作業上に差支へなき限り多數の聴講研究者のある如く歓迎して已まざるものなり進んで參加あらむことを

庶般行政

◎宮廷録事

◎祈年祭班幣 二月四日官國幣社祈年祭班幣相濟みたり
 ◎御禮電 宣仁親王同妃殿下埃國に於て厚遇を享けさせられ且つ大統領閣下より同親王殿下へ「グラン、コルドン、ド、ラデコラシヨン、ドヌール、

アンノール」勳章を贈られたるに付二月三日 天皇陛下より同大統領閣下へ御禮電御發送あらせられたり

宣仁親王同妃兩殿下チエツコスロヴァキア國に於て厚遇を享けさせられ且つ大統領閣下より同親王殿下へ「グラン、クロワ、ロルドル、デユ、リオン、プラン」勳章を贈られたるに付二月七日 天皇陛下より同大統領閣下へ御禮電御發送あらせられたり
 ◎社會事業御獎勵 二月十一日紀元節に際し社會事業御獎勵の思召を以て成績優良なる社會事業六百八

十團體に對し夫々獎勵金を下賜せられたり

◎御帶進献 二月十二日午前九時 戴仁親王殿下は勅旨を奉じ御帶を 皇后陛下に進献せられたり

◎御着帶奉告の儀 二月十二日午前十時 賢所 皇靈殿神殿に 皇后陛下御著帶奉告の儀を行はせられたり

◎紀元節祭及同宴會 天皇陛下は二月十一日紀元節祭の儀を行はせられ正午紀元節宴會を催されたり

◎祈年祭 二月十七日祈年祭の儀を行はせらる

◎仁孝天皇例祭 二月二十一日仁孝天皇例祭の儀を行はせらる

◎第二回萩町會

二月二十八日午前十時半より開會、出席議員二十六名、林町長は別項の如く昭和六年度萩町歳計豫算編成に付説明する所あり引續き左記の事項を附議し三月二日より繼續町會を開くこととし午後四時散會したり

一、昭和四年度萩町各種會計歳入歳出決算認定の件

- 一、昭和六年度萩町一般會計歳入歳出豫算
- 一、昭和六年度萩町特別會計歳入歳出豫算
- 一、昭和六年度萩町一部會計歳入歳出豫算
- 一、昭和六年度町税賦課率の件
- 一、條例設定の件
- 一、町長助役及収入役給料額の件
- 一、萩町水防組規程中改正の件
- 一、町立傳染病院本町外入院患者より實費徴收額の件
- 一、各種資金の積戻を繰延ふるの件
- 一、萩町立工業傳習所廢止の件
- 一、萩町立小學校教員住宅料支給停止の件
- 一、萩町立萩商業學校實踐教室増築に關する件
- 一、小學校營繕費繼續年及支出方法變更の件
- 一、町費を以て補助を爲すの件
- 一、萩魚市場事業資金過渡に依る戻入の件
- 一、一時借入金を爲すの件
- 一、萩町繼續費寄附金支出計算表追加の件
- 一、寄附受理の件
- 一、豫算外義務負擔を爲すの件

一、豫算外義務負擔を爲すの件

- 一、萩町基本財産及各種資金の積戻を繰延ぶるの件
- 二、昭和五年度萩町歳入歳出追加更正豫算
- 三、區長代理者決定の件
- 四、弔慰金贈與の件
- 五、萩町及一部會計の事務報告書
- 六、萩町及一部會計の財産表

◎昭和六年度萩町豫算町會 開催に際し町長の挨拶

本日をも以て昭和六年度萩町歳計豫算審議の町會を開催する事を得たるは萩町勢進展の爲慶賀に堪へざる所なり、吾萩町に於ては曩に昭和五年度豫算の編成を爲すに方り其の筋の訓令に基き各費目に涉り相當の整理緊縮を加へ其の豫算の執行に當りては専ら經費の節約に重きを置き現に實行中に在り爾來昭和六年度の歳計に付ても前年度同様の主旨に依り一層緊縮を敢てせむことを期せしむるに際し豫想外に農産物の價格を低下したるに商工及水産業の沈衰極り無く加ふるに萩町特産物の首位を占むる夏蜜柑の寒傷

に因る慘害ありたる等吾萩町として格段なる財界の悲運に遭遇したるに依り昭和六年度豫算の編成に付ては萩商業學校に於ける法規上已むを得ざる新營費を除くの外一齊に新規事業の計劃を廢したる而已ならず各種の經常施設に於ても能ふ限り萬難を排除し行政事務を變理せむとする一大決心の下に昭和五年度の歳計總額に比し更に金四萬五千五百四拾四圓を減額することとせり其の減額の主なるものを舉ぐれば歳出經常部として役場費に於て主として給料雜給及び需用費の減少に依り金六千九百餘圓、土木費に於て指定修繕及監督員給料の減少に依り金參千百餘圓、教育費に於て萩商業學校教員の増員を要するものあるに拘らず小學校に於て教員二人を減員するの外各學校及圖書館を通じ雜給及需用費の減額に依り金七千四百餘圓、工業傳習所廢止に依り金貳千參百餘圓、歳出臨時部として萩商業學校營繕費に於て實踐教科新設の爲金貳千五百餘圓の増費あるも役場費に於て需用費を要せず且戸數割調査費を減少したる爲金千貳百餘圓、土木費に於て道路橋梁費を節約したる爲、金貳千九百餘圓各種資金積戻に於て元金の

積戻を繰延べたる爲金九千八百餘圓、補助費に於て各支給額を減少したる爲金四千六百餘圓、以上の外各費目の増減額を通算し合計金四萬五千五百餘圓を削減することと爲せるに在り而して之に應ずる歳入に付ては其の主眼点を町税の負擔輕減に置くこととせり一面に於て縣費補助金、繰入金及財産賣拂代等自然の減收を生じたるに依り之を差引き町税に於て金貳萬八千餘圓を減少し特別税戸數割に在りては昭和五年度に於ける一戸平均金貳拾壹圓拾壹錢壹厘より更に金參圓貳拾八錢壹厘を減少し其の一戸平均額の金拾七圓八拾參錢に止むることとせり、尙豫算の詳細に涉りては改めて各科目に就き説明することとすべし此の上とも慎重審議を遂げられ悲惨なる財界時に即すべく歳計豫算の決定あらむことを望む次第なり

昭和六年二月二十八日

◎二月中に於ける本町 各種委員會開催

二月七日午後一時半より善行者表彰に關し審議委員會開催

- ◎二月七日午後一時半より善行者表彰に關し審議委員會開催
- ◎二月二十三日午前九時より昭和六年度豫算編成に關し都市計劃委員會開催
- ◎二月二十三日午後一時より昭和六年度豫算編成に關し魚市場委員會開催
- ◎二月二十四日午前十時より昭和六年度豫算編成に關し學務委員會開催
- ◎二月二十四日午後一時より昭和六年度豫算編成に關し産業調査委員會開催
- ◎二月二十五日午前十時半より昭和六年度豫算編成に關し財政調査委員會開催

○二月中發令の主要法規

●國の法規

- ◎二月六日大藏省令第四號を以て煙草賣捌規則中改正の件發令
- ◎二月十二日遞信省告示第二百七十五號を以て明治

三十四年十月逕信省告示第三百八十九號に依り發行せる改正増補萬國船舶信號書第一編中日本船舶手旗信號法の一部改正の件公示

◎二月十九日文部省告示第四十三號を以て山口縣熊毛郡室積町に設置せる山口縣立女子實業學校教員養成所の修業年限を昭和六年四月より二箇年に變更の件昭和六年二月十八日認可の旨公示

◎縣の法規

◎二月十三日山口縣令第七號を以て興行場及興行取締規則の件公示

◎二月十三日山口縣訓令第七號を以て興行場及興行取締規則施行手續の件發令

◎一月十三日山口縣告示第九十二號を以て昭和六年二月山口縣令第七號興行場及興行取締規則第三十五條に依り説明者及技士試験規程の件公示

◎萩町告示の主なるもの

一、御眞影奉戴に關する件

一、建國祭行事の件
一、夏蜜柑被害畑地免租申請方の件
一、野犬撲殺の件
一、皇后陛下御慶事に關する件

◎叙任辭令

山口縣會議員 山根 鐵藏
都市計畫山口地方委員會委員被仰付

(萩町出身の分)
伊藤 通利

叙從七位

(萩町關係の分)

◎昭和五年國勢調査の新宿御苑其の他拜觀方に關し山口縣臨時國勢調査部長の通牒

昭和五年國勢調査員ノ新宿御苑、京都御所及二條離宮拜觀方ニ關シ内閣統計局ニ於テ宮内省ニ交渉中ノ

處今般第一回並大正十四年國勢調査員及昭和四年農業調査員ト同様ニ拜觀可被差許旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度

追テ右拜觀ノ手續、書式等ニ就テハ自今特ニ左記事項ニ留意セラルヘク宮城内ハ大正十四年十月以降一般ニ拜觀停止中ニ付爲念申添候

記

- 一、國勢調査員ノ拜觀ハ今後特別ノ事由アル場合ノ外ハ成ルヘク昭和五年國勢調査員ヲ主トスル團體(第一回及大正十四年國勢調査員ハ其ノ團體ノ一部トシテ參加スルモ妨ケス)ニ限ルコト
- 二、拜觀人員ハ成ルヘク十五人以上ノ團體トスルコト
- 三、拜觀願及拜觀者名簿ハ左記書式ニ依リ一拜觀箇所毎ニ三通市町村長ニ於テ之ヲ作製シ拜觀希望日限初日ノ十五日以前ニ當應ニ到達スル様提出ノコト
- 四、拜觀希望日限ハ少クトモ十日間以上ノ期間トスルコト
- 五、服裝ハ非禮ニ涉ラサル程度ニシテ履物ハ成ルヘク靴又ハ草履ヲ用ヒ齒ノ附キタルモノハ之ヲ避ク

六、御聽許相成リタル上ハ晴雨ニ拘ラス拜觀スヘキコト
左記略

旌表

◎私立双葉幼稚園長金子虎吉氏表彰

昭和六年二月十一日紀元節の佳節に當り本縣より表彰せる篤行者功勞者及優良團體の内萩町私立双葉幼稚園長金子虎吉氏の表彰狀並に事蹟概要左の如し
多年保育事業に盡力し其の成績顯著なり仍て山口縣選奨規程に依り之を選奨す
昭和六年二月十一日

山口縣知事從四位勳四等 平井 三男
事 績 概 要

私立双葉幼稚園長 金子 虎吉
慶應二年四月五日生
資性温厚にして篤實、自ら奉ずる事薄く公共に盡すの念に厚し、其の旺盛なる教育愛と數十年を貫く堅

實なる志操とは世上稀に見る所なり。慶應二年四月阿武郡萩町に生れ、明治十五年五月職を小學校教員に奉し爾來勤績三十八年に及び、大正九年六月現職に就きて更に十年を加へ、教育事業に従ふこと前後を通して實に四十八年の久しきに達せり。

小學校教員當時の事績に就きて觀るに、三十八年の長年月間終始一貫致々として其の職務に勵精せるの外或は佛教少年會を起し或は温知學舎を創むる等殆ど一身を抛ち晝夜を忘れ一般青少年の教養に盡す所あり、少年會が創立以來今日に迫ひて實に四十有餘年を數へ毎日曜會の出席者常に八百名を上下せる如き又温知學舎が四十六年の星霜を繼續して克く今日に至り現在八十餘名の學舎生を有し創立以來の在籍者數千人を數ふる如き如何に教育精神の熱烈にして功績の多大なるやを察知すべく從來縣郡町村其他諸團體より屢々表彰の榮を荷へるもの寔に偶然に非らざるなり。

大正九年三月多年の教職を退き郷里萩町に於て現幼稚園の創立並に之が經營に任するに至りたるか之より夙に先幼兒保育事業の極めて重要なに着眼し多

年之か研究に心を潜め又佛教少年會に幼稚部を設置し之を實際に試むる所あり、斯くして其の業漸く緒に就くに及び遂ひに之か特設擴張の實現を期せむとするに至り地方有志に憊へ其の援助を求むる等苦心數年の久しきに及ひしか或篤志家の知る所となり其の出資を得大正九年遂に其の目的を達成することを得たり。爾來本園は着々として其の組織を整へ今や縣下に於ても稀に見るの良成績を擧ぐるに至りたるか其の設備方面に於ては敷地總坪數一千五百七十二坪講堂あり、保育室あり、保母室あり、園長室あり運動場あり、保育用具も能く充實し殆ど間然する所なし、更に職員方面に於ても園長の外保母書記等五名を算し教養上更に遺憾あるを見ず。

園兒數は現に百三十餘名あり、既に修了せる者七百餘名に達す、之が保育の方針につきて見るに教育愛を以て根基とし、自然性を尊重すると同時に人格的感化に重きを置き力めて穩健中正を旨とせり、而して之が具體的施設に於ても朝會其他の諸儀式と云ひ、土曜會其他の諸會合と云ひ、或は雜祭、端午と云ふが如き何れも成績良しきを示し効果の見るべ

昭和六年二月十一日
萩町長從五位勳六等 林 勇 輔
事 蹟 概 要

きものあり、優に他の範とするに足れり。同人は今や齡古稀に近く而も心身頗る強健教育を以て無上の樂と爲し終生娶らず、嬉々として幼兒に伍し更に倦む所なし、斯くして過去數十年に亘る多大の教育功績は普く世人の認むる所となり、彌々郷黨の敬愛と信望とを受けつゝあり、大正十五年七月四日其の還曆に方り地方有志相謀り萩町公會堂に於て祝賀會を開催したるが會する者實に五百餘名の多數に上れりと云ふ以て其の一端を窺ふに足るべし。

◎善行者表彰

二月十一日紀元節の佳辰に當り恒例に依る萩町善行者の表彰式を舉行せり、其の表彰狀並に事蹟概要左の如し

表 彰 狀
萩町玉江浦漁業組合
組合員克ク和衷協同漁浦ノ改善公共事業ノ幫助ニ努
メ其ノ施設宜シキヲ得成績ノ視ルヘキモノアリ仍テ
茲ニ金壹封ヲ授與シ其ノ成績ヲ表彰ス

本漁業組合は明治卅六年二月二十四日の設立に係はり現在組合員二百七十五名を有す大正三年現組合長柳敬之助理事に就任以來組合員一致協力して漁浦の改善公共事業の幫助に努め成績の視るべきもの尠からず其の施設事業等概ね左の如し

- 一、漁獲物共同販賣所の施設
- 大正三年より昭和三年四月其設備を繼承し萩町立魚市場出張所と爲すに至るまで十四箇年間本組合に於て之を直營し相當の利益を收得せり
- 二、遠洋出漁の奨励
- 現在遠洋出漁船五十八艘（石油發動機付漁船五十艘日本型帆船四艘）を有す而して當浦漁民の遠洋出漁は今日より約百七十年前寶曆年間に初まり爾來之を繼續して今日の盛況を齎すに至れり其の間常に新規漁具漁船の改良建造に力を效し以て新漁場の開拓に努め近時に在りては毎年五島沖及朝

鮮西南海方面に於ける鯛、鱈、鯖、延縄漁業に従事し年と共に其の成績顯著に向ひつゝあり

三、組合員の負債整理

明治の末年より大正の初年に互り組合員の負債著しく増加し次で大正十年五月大火災ありて七十餘戸を全焼す疲弊困憊其の極に達せるに際し組合員をして克く之が挽回策に付自覺奮起せしめたると幹部の斡旋盡力の宜しきとに依り其の後數年にして負債の全部を完済し之が整理を斷行したる結果今日の如き旺盛なる勤勞精神を喚起し共存共榮の美風を訓致せしむるに至れり

四、遭難の豫防及其の救恤

漁船の遭難を豫防する爲海岸に電燈を設備して通航者の安全を圖り及別に定むる方法に依り特別の積立金を蓄積し遭難者の救恤に努方する所あり

五、蒲鉾共同製造場の設置

農林省の漁村共同施設獎勵資金を受け蒲鉾共同製造場を設置し製品の統一及改良に努め其の成績比年良好の域に進みつゝあり

六、船舶溜りの浚渫及橋梁の架設

漁船舶溜りを浚渫して船舶の繫留に便を興へ及其の附近に二箇の橋梁を架設して交通の便を圖る等其の施設亦適當なりとす

七、青年會の指導後援

主として遠洋出漁者を以て組織する青年協行會員を指導後援して常に勤儉貯蓄の美風を養成し之が實踐に努めしむ其の成績極めて良好なり

八、和船競漕會

遠く文化年間に起り現今に至るまで當浦の行事として之を繼續せり其の選手は同浦上、中、下、角屋組青年漁業團全員の選舉に依り各組より素行善良なる者七名宛を選び之に當らしむるものにして毎年六月二日を恒例日と爲し同浦辨天社祭典の奉仕を爲す傍ら青年の海技を練磨し率て其の征海思想を旺盛ならしめむとするものなり當浦の遠洋出漁の如き年と共に盛況を來せるに鑑み故ありと謂ふべし

九、青年宿

當浦上、中、下、角屋の四組に各一箇所の青年宿を設け漁業に従事する者にして滿二十五歳に達す

昭和六年二月十一日
萩町長 林 勇 輔
事蹟概要

る迄の男子は家格の如何に關らず必ず此の宿に起居せしめ宿頭等より漁具の構成及是等修繕作業の指導を受けしめ漁業上の訓練を爲すを例とす又各宿には修養上必要な雜誌圖書を備付け之を閱覽せしむるに依り在宿者而已ならず一般青年の風紀改善せられ二十歳以下の者は進むで禁酒禁煙を勵行するに至れり其の成績顯著なるものあり

昨五年十一月大日本聯合青年團理事田澤義輔氏は陛下の御前進講に於て當浦青年宿の現狀に付之を天聽に達したる光榮を荷へり

以上の如く各般の施設著々效を奏し其の成績顯著なりとす仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する所以なり

昭和六年二月十一日
萩町長 林 勇 輔

表 彰 狀

萩町土原協和會

會員克ク和衷協同風教ノ改善公共事業ノ補助ニ努メ其ノ施設宜シキヲ得成績ノ視ルヘキモノアリ仍テ茲ニ金壹封ヲ授與シ其の成績ヲ表彰ス

土原全區民は相互の親睦を計り其の福利を増進して區内共存共榮の實を擧げ進んで公益事業の達成に盡瘁する爲大正三年四月土原協和會を設立し爾來十七星霜を閱せり此の間會長役員并に會員の熱誠なる努力に依り其の成績視るべきもの尠からず事蹟の概要左の如し

一、沿革

明治三十五年青年を以て組織し土原教育團と稱せり同四十四年十二月名稱を青年會に改め大正三年四月會則を改正して區民全部を包擁することとし土原協和會と稱し今日に至れり

二、公會堂の建設

大正九年五月區内外の特志者より費金千六百圓を騰出せしめて公會堂を建設し區内の示談會或は精神修養會を開催して思想の善導を計り且青年体育の向上に資する所あり

三、善行者表彰

昭和三年四月区内に在る篤志篤行者の表彰を行ひ善行の美風を奨励したり

四、道路の改善

昭和四年十一月御大典記念事業として他區に卒先して区内二十三箇所互に互る主要なる町村道の街角切取工事を完成し交通運輸の便を計れり

五、保健衛生

毎年衛生組合と協力し豫防用薬品を購入して之を各戸に配付し大に防疫に努むる所あり

六、青年團の指導

常に青年團を指導して道路の保護に任せしめ且冬期は火災盗難防止の爲夜警を爲す等奉仕的作業を行ふに當り能く之を援助しつゝあり

七、納税の成績

納税成績の向上を計る爲昭和四年四月土原第二區に於て納税組合を設立したるに依り之を援助し其の成績の顯著なるに鑑み將來更に土原全區をして之を設立せしむることとせり

八、基金造成

特志者の寄附金を積立てたるもの現に金壹千餘圓を有す今後此の果實に依り副業の奨励を爲し勤勞の美風を作興せしむべく計劃中なり

以上の如く本区内協同輯睦の實視るべきものありて其の成績亦顯著なりとす仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔
表 彰 状

萩町小原區

區民協同一致シテ区内ノ發祥ニ努メ特ニ共同貯金ヲ勵行シ納税ノ成績等視ルヘキモノアリ仍テ茲ニ金壹封ヲ授與シ其ノ成績ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔
事 蹟 概 要

萩町小原區

區民協同一致して区内の親交及産業の改良發達に助め殊に租税及公課の納期を確守し其の成績の視るべきもの尠からず同區の施設事業等概ね左の如し

一、規約貯金

大正十二年二月区内有志者十五名を以て申合せ規約貯金を開始し後之を区内一團に及ぼし現今に在りては区内各人をして之を勵行せしむる爲出生者あるときは更に其の月より貯金を開始せしむることとせり現在貯金総額は金貳千五百圓にして山田信用組合の預金として之を保管せり

二、農事組合

昭和三年十月農事組合を設立し肥料の共同購入日用品并に農産物の共同販賣等を行ひ其の成績良好なり

三、区内の共同植林

1、松の造林貳町歩
日露戦役記念として区内に在る在郷軍人分會員之を經營管理せり

2、杉の造林參町歩

区内に在る青年團員之を經營管理せり
四、道路の修繕
毎年四回区内各戸一人宛夫役を提供して道路の修理を爲すを例とす

五、神社并に公會堂の清掃

毎月一日より三日迄の間に於て区内各戸の順番を以て之が清掃を行ひ敬神思想の涵養及協同心の發露の爲努力する所あり

六、戸主會及主婦會

昭和四年九月戸主會及主婦會を設立毎年四回定期集會を開催し区内の示談並に精神修養の講話を聴くこととせり爾來區民の意思疎通上資する所尠からず情誼著しく敦厚を來せるに至れり

七、公會堂建設

大正三年各戸より建築用材の寄附を受け公會堂を建設し衆樂の會場と爲せり

八、婦人の勤勞作業

区内の婦人は農閑期並に夜間を利用して大敷網用大目繩、夏蜜柑包装用繩及草履等を製作し其の年收約八百圓を算するに至れり

九、納税の成績

租税及公課の納期を確守し未だ嘗て一人の滞納者を生じたることなし

十、區長役場の整理

文書の整理、現金の收支保管等能く行はれ示達事
項亦周匝に向ひつゝあり
以上の如く各般の施設著々效を奏し其の成績の視る
べきものあり仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選
奨する所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

表 彰 状

萩町今古萩町區

陸軍歩兵大尉從六 二 階 榮

多年在郷軍人分會並青年訓練所ノ指導ニ努メ其ノ成
績ノ視ルヘキモノアリ仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之
ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

萩町今古萩町區

陸軍歩兵大尉從六 二 階 榮

明治五年五月六日生

資性温良恭謙嘗て軍籍に在りて殊勳あり功六級を賜
はる歸郷後常に在郷軍人分會及青年團の指導に力を
盡し大正十五年七月帝國在郷軍人會萩分會長に就任
して能く地方區民との間協調融合せしめ會員の指導
誘掖に努むると共に卒先分會内容の充實を計り會員
の和衷協同に貢献したる結果團體訓練の成績漸く顯
著に嚮ひ會員の信頼益々厚く威令能く行はるゝに依
り自ら會員の責任觀念頓に向上し公共事業の爲活動
するの美風を馴致せしめたる等其の功績頗る大なる
ものあり
明倫青年訓練所は開設以來其の成績極めて不良にし
て生徒の出席僅に十數名に過ぎざりしことあり昭和
二年六月卅日之が指導員を囑託せらるゝや常に自ら
以て範を生徒に示し傍ら町民に對し青年訓練所の趣
旨を徹底せしめ以て生徒の入所出席の獎勵に努むる
等専心其の向上發展の爲粉骨碎身を意とせず遂に今
日の如き成績を見るに至れり又萩町内六箇青年訓練
所指導員中の上席者として常に他の訓練所指導員を
啓發誘導し其の老練なる手腕と圓熟せる思慮を以て
克く在勤訓練所の業績を裨補する等眞に賞讃に値す

明治二十五年二月二十五日生

るものあり昭和五年三月三十一日明倫青年訓練所指
導員の囑託を罷め新に顧問に選任せられたる後に於
ても依然として生徒の入所勸誘を怠らず青年團の會
合に當りては力めて之に参加し、或は一般に對し青
年訓練所趣旨の普及徹底を主唱して已まざる等他の
儀表たるべきものと認む仍て萩町善行者表彰規程に
依り之を選奨する所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

表 彰 状

萩町玉江浦第一區

齋 藤 實

多年教職に在りて學校教育並ニ社會教育の爲盡瘁シ
其ノ成績ノ視ルヘキモノアリ仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授
與シ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

萩町玉江浦第一區

齋 藤 實

資性醇良誠實にして犠牲報效の念厚く恪勤精勵聊か
も勞を厭はず多年の間教育並に公共事業の爲盡瘁し
其の成績顯著なるものあり明治四十四年三月山口國
學院中學校を卒業して職を椿東尋常高等小學校に奉
し爾來擔任學級の經營に全力を注ぎ兒童及び父兄の
信頼最も篤し大正元年十二月歩兵第四十二聯隊に入
營中守備隊として滿州に派遣せらる其の間終始忠實
を以て軍務に服し模範兵として精勤及善行の兩章を
受有す後又勤務演習に應召して特別名譽の表彰に遇
ひたることあり大正三年十一月明倫尋常高等小學校
に轉任し爾來十數年間歴代校長を補佐して専心兒童
の教育に力を竭せると共に社會教育に献贊する所亦
尠からず嘗て萩町明倫青年團幹事に就任し克く其の
團務を處理したる而已ならず夜警のことに道路の補
修に或は火災の豫防に非常變災の救急作業に又は男
女青年修養會の幹旋等のことに膺り献身努力せる所
多し大正十五年五月 皇太子殿下萩町行啓に際して
は特に奉迎委員を委嘱せらるゝの光榮を荷ひ一面帝
國在郷軍人會萩町山田分會長並班長として分會の事

業を翼賛し其の成績良好なるに依り山口聯隊區司令官より感謝状を授與し其の勞功を賞揚せられたり後年明倫小學校訓導の職を辭したる後に在りても常に青年の家庭を訪問して青年訓練趣旨の普及に努め或は理髮業組合員を動かして明倫青年訓練所第二特別班の組織を見るに至らしめたる等隱に奉仕の事業を繼續して倦まざるが如きは教育功勞者として特筆するに足るべきものとす仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

表 彰 狀

萩町土原第二區

江口 數 雄

多年母ニ事ヘテ孝養克ク弟妹ヲ愛育ス稀ニ視ルノ青年トス仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

萩町土原第一區

表 彰 狀

萩町濱崎新町第二區

船 戸 熊 市

多年母ニ事ヘテ孝養克ク弟妹ヲ愛育ス稀ニ視ルノ青年トス仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

萩町濱崎新町第二區

船 戸 熊 市

資性温良にして品行方正業務に精進し常に郷閭の模範と爲る大正十年十月八日父清次郎病死し家には病弱なる母と妹六人ありて収入の途全く絶へ糊口に窮するに至りたるを以て自ら進むて萩響海館印刷職工と爲り最近亦東田町三好活版所に轉勤し恪勤精勵母に孝順を盡し能く弟妹を愛育す爾來今日に至るまで夜業を繼續し未だ嘗て不平不満を漏したる等のこと無く與へられたる業務を其の天職と爲し孜孜奮勵せり仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する所以

江口 數 雄

明治四十二年八月十二日生

資性温順にして敦厚なり嘗て父母及び弟妹五人を有し父は不幸にして長期の中風症に罹り周到なる看護も其の効なく遂に永眠せり、當時年少にして克く母に孝養を盡し幼き弟妹を愛育すると雖何等收入の途なく日々生活上の困難を感ずるに至りしも敢て屈する所なく大正十三年明倫尋常高等小學校卒業後直に萩郵便局集配手を志願し採用せられて以來専心職務に精勵し日を曠ふすることを欲せず漸くにして一家の生計を支持し弟妹の教養を爲すことを得るに至れり爾來八箇年間各種の誘惑を斥けて一面冗費を節約し奮闘努力の效に依り能く家事を整理し現今に在りては多少の蓄財を爲すに至るが如きは其の行爲實に地方青年の範と爲すに足るべきものあり此の故を以て嘗て土原協和會より表彰を受けたることあり奇特と謂ふへし依て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

多年小學校使丁トシテ其ノ職務ニ盡瘁シ成績ノ視ルヘキモノアリ仍テ茲ニ銀盃壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

萩町立椿西尋常高等小學校

使丁 名 仁 澤 茂 一

資性真摯且著實にして大正元年十月椿西尋常高等小學校使丁を拜命して以來約二十箇年間恪勤精勵以て今日に至る此の間校舎移轉改築のことありて内外の清潔整頓補修等使丁として爲すべき勤勞頗る多かりしも克く其の煩に堪へ毫も勞苦を厭はず終始自己の責任を以て其の職務に盡力せり其の他火災の警防校

具の整理等に至るまで常に深甚の注意を拂ひたる爲
 校舎校具の保存修理上間接に貢献せること亦大なり
 殊に在校兒童生徒に對する心情極めて親切にして且
 表裏なく職分奉仕の眞諦を暗示する等教育上に及ぼ
 したる効果亦尠からず茲を以て大正十一年十月三十
 日學校創立五十周年記念日に當り當時の椿村長及椿
 西小學校長より表彰せられたることあり宜なりと謂
 ふべし仍て萩町善行者表彰規程に依り之を選奨する
 所以なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

表 彰

萩町濱崎新町第一區

久光大四郎

年少ニシテ克ク病父ニ孝養ヲ盡シ母ヲ扶ケテ家業ニ
 精勵スルコト多年其ノ善行他ノ範ト爲ヌニ足ルモノ
 尠カラズ仍テ茲ニ硯箱壹個ヲ授與シ之ヲ表彰ス

昭和六年二月十一日

萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

事 蹟 概 要

大正十一年四月明倫尋常高等小學校尋常科第一學年
 に入學の當時より父棟三郎は中風症を患ひ歩行不可
 能と爲り家計意の如くならず長するに従ひ日夜精勵
 母姉を助けて菓子製造の手傳ひを爲し漸くにして一
 家の生計を支持するに至れり昭和四年八月不幸にし
 て父は不歸の客と爲り父病みてより八箇年此の間嘗
 て看護を怠らず或は住吉神社に參拜して父の平癒を
 祈り或は世上の出來事などを語りて病父の無聊を慰
 むる等其の孝養到らざるなく附近の賞讃する所たり
 如斯年少なりと雖能く家計の豊かならざるを思ひ兄
 に從ひて蒲鉾等を町内に行商するを例とせしが兄亦
 亡き人と爲りたるを以て自ら其の業を繼ぎ一日とし
 て缺ぎたることなく賣上金は悉く之を母に貢きて生
 活の資となす而已ならず一面風雪を冒して新聞配達
 に従事することあるも爲に學校を遅參缺席したること
 なく却て屢々皆勤の賞を得たり又日曜日如きは
 午前は菓子を午後は蒲鉾を行商し或は神社の祭禮、

寺院の法要等に際し母と共に露店を設けて菓子を販
 賣し時深更に及ぶも敢て倦怠の色なし殊に能く自己
 の境遇を理解して毫も他を羨望し不滿の言行を弄し
 たることなく姉亦故人となりてより今は只専心母の
 業務を援けて家運の挽回を計るを以て無上の樂みと
 せり其の他小學校在學中に在りても常に操行善良に
 して其の成績亦級中の上位を占め殊に勤勞奉仕の精
 神に富み責任の觀念強く克く教師の命を守り卒先事
 に當りて表裏なし昭和五年三月明倫尋常高等小學校
 を卒業するに際し同校長より表彰せられたり爾來益
 々業務に精進すると共に新聞配達を續行し刻苦奮勵
 實に十年一日の如くにして今日に及べり其の善行稀
 に見る所なりとす仍て萩町善行者表彰規程に依り之
 を選奨する所なり

昭和六年二月十一日

萩町長 林 勇 輔

◎感謝狀贈呈

左記の通香川津報徳會に對し感謝狀を贈りたり

學 事

感謝狀贈呈
 大正七年以來拾四ヶ年間會員一致協力シテ香川津東
 區内町村道ノ補修ニ努メ其ノ成績視ルヘキモノアリ
 仍テ茲ニ感謝狀ヲ贈呈ス
 昭和六年二月十一日
 萩町長從五位勳六等 林 勇 輔

◎天皇兩陛下御眞影奉戴

今回當町立商業學校及各小學校に對し新に御下賜に
 なりたる 天皇皇后兩陛下の御眞影は二月七日午前
 七時三十分山口縣廳に於て林町長拜受各學校長之を
 捧持し途中何等異狀なく豫定の通午前十時四十分各
 學校共奉戴式を舉行し式後奉安殿に夫々安置し奉れ
 り

◎青年教育更張に關する山口縣學務部長よりの通牒

一月十三日山口縣訓令第一號を以て標記の件訓令あり右は青年教育に關する各種機關の内容を改善充實すると共に相互の聯絡提携を密にして指導の徹底を期し以て青年教養の本旨を全うするの趣旨にして當事者は該訓令の趣旨を體し左記事項に留意し地方の實情に稽へ適當なる施設を講し目的の貫徹を期する様通牒あり

記

- 一、市町村に於ては一層青年教育の振興に努力すると共に適當なる後援機關を設置する等全市町村協力一致之に當るの美風を馴致すること
- 二、小學校、實業補習學校、青年訓練所に於ては職員の教育力の分配に一段の考慮を拂ひ一層青年教育の徹底を期すること
- 三、中等學校に於ては職員に教育力並各種の設備を利用して積極的に青年教育に當ること
- 四、郡市教育會其他社會教化に關係ある諸團體に於ては直接間接に青年教育の助成に努むること

五、指導經營上左の事項に留意すること

- 1、青年訓練所
 - イ、入所出席率の向上を圖ること
 - ロ、學科と教練との併進に努め内容の改善充實を期すること
 - ハ、講習會、研究會、見學、視察等に依り主事指導員の研究を奨めて指導能率を高め以て訓練の徹底を期すること
 - ニ、講話會、懇談會等を開き父兄、雇傭主、會社商店工場主等に趣旨を徹底せしめ入所出席の向上に資すること
 - ホ、合同訓練野外教練等を行ひ訓練の向上を圖ると共に其の内容を一般に周知せしむること
 - ヘ、都會地漁村等に於ける青年訓練の振興を策すること
 - ト、訓練に必要な相當の設備をなすこと
 - チ、全市町村協力一致青年訓練の後援に當らしむること
- 2、青年團
 - 本縣青年團三大綱領並施設の四大綱目の徹底を期すると共に左記事項に留意すること

特に飲酒、喫煙、性病等につき適當なる指導をなすこと

ヌ、適當なる娛樂を興へ風紀の改善に資すること

3、女子青年團

- 本縣女子青年團施設の五大綱目の徹底を期すると共に左記事項に留意すること
- イ、郷土を中心としたる女子青年の友情關係を一層緊密ならしめ相互砥礪修養に努め良好の團風を作興し美風良俗を馴致するやう指導を加ふること
- ロ、支部の活動を促進すること
- ハ、貞操觀念を養ひ結婚に對する正しき理解を得せしむること
- ニ、宗教的信念の啓培に努むること
- ホ、讀物の選擇に留意し讀書の指導獎勵をなすこと
- ヘ、實業を尊重し勤勞を愛好するの精神を養ふこと
- ト、合理的的生活並公共生活の訓練に努むること

イ、郷土を中心としたる青年の友情關係を一層緊密ならしめ相互砥礪修養に努め良好の團風を作興するやう指導を加ふること

ロ、青年團は其の本質上自治の訓練を徹底せしめ自治的に之を組織經營せしむべきは勿論なるも指導者は之を放任することなく常に適當なる指導督勵を加ふること

ハ、青年團支部の活動を促進すること

ニ、宗教的信念の啓培に努むること

ホ、讀物の選擇に留意し讀書の指導獎勵をなすこと

ヘ、勤勞を愛好し産業に關する研究心を奨むると共に職業に對する確固たる信念を得せしめ職業を尊重するの精神を涵養すること

ト、政治經濟に關する智識を涵養し公民的訓練をなすこと

チ、選手制の體育運動を避け全員最も合理的に斷へず之を實施せしむるやう指導を加ふること

リ、保健衛生に關する指導に留意すること

チ、地方自治に關する理解を與ふること
リ、保健衛生に關する指導に留意すること
特に飲酒、喫煙、性病等につき適當なる指導
を加ふること

◎小學校職員異動

白水尋常高等小學校准訓導 河内山 績子
願に依り退職を命す 村岡 愛子

白水尋常高等小學校准訓導心得を命す
(以上二月十日付山口縣)

◎明倫小學校に於ける御 眞影拜戴式

本校にては今回兩陛下の御眞影御下賜に際し全職員
兒童一同は二月七日午前十時校門前より本校南側道
路に整列し謹みて御着を奉迎申し上げそれより引續き

講堂に於て奉戴式を舉行校長より一場の訓辭ありて
職員兒童補習學校生徒青年團員を始め林萩町長並に
多數來賓の奉拜を行ひ式を閉づ

◎明倫小學校の練武週間

本校に於いては二月二日より七日までを練武週間と
定め毎朝六時より七時半まで高等科男子百五十名に
對し講堂に於て劍道寒稽古を實施し本校男教員十六
名之が指導に當り毎朝定刻より猛練習を行ひ以て兒
童の志氣を鼓舞し身心の鍛鍊に資する處ありたり尙
ほ之が納式として九日午後一時より劍道大會を開催
何れも旺盛たる元氣と技倆の進歩とを示し賞品授與
の後午後四時終了せり

◎明倫小學校の教育成績に及 ぼす影響の綜合的研究調査

本縣に於ては小學校兒童の教育成績に及ぼす影響を
綜合的に研究調査し以て教育上の効果を全たからし

も個性に徹したる眞の教育を行ひ得るは勿論兒童の
訓練養護等各方面に一新機軸を劃するものとして注
目すべきであらう

◎明倫小學校進學兒童 父兄保護者會

本校に於ては毎年の例により二月十九日午後一時よ
り本年四月中等學校進學希望兒童の父兄保護者會を
開催し進學に對する諸注意につき學校長より一場の
講話あり引續き學級擔任教員との間進學に關する詳
細に亘り懇談を遂げ隨時散會せり本年度進學希望者
數左の如し

萩中學校 五十三名 商業學校 四十九名
萩高女校 百七名 修善女學校 三十六名
其の他一名

◎弘中縣視學明倫小學校巡視

大津、阿武兩郡巡視中の本縣視學弘中傳人氏は二月

むることに着眼し縣下に於ける小學校中七校を選定
し約二萬人の兒童に就き實地の調査を施行し研究の
資料を得ること、なし昭和五年七月十九日其の一校
として明倫小學校を指定せり。茲に於て本校は九月
二日渡邊本縣學校衛生技師を聘し内科眼科耳鼻咽喉
科の各専門醫參加の下に同調査に關する研究會を開
催し爾後全兒童に亘りて當局より指定せる調査要項
に基き進行日程を作製し十二月二十日を以て各要項
に涉る個人的調査を完了せり。而して昭和六年二
月初旬其の集計に着手し同月十日全部を完了せしを以
て翌十一日報告書發送を終れり、廣汎なる影響を而
も綜合的に研究調査する事は未だ全國に其の例を見
ざる所にして此の研究の完了せる曉は教育上に於て
新しき一進路を示すものとして其の期待せらるゝこ
と極めて大なるものあり。明倫小學校に於ては更に
一步を進めて全兒童の肺活量背筋力握力懸垂力の調
査に着手し目下着々進行中にして本月十五日頃まで
には全部の調査を完了する豫定なり而して學校當局
に於ても是等諸調査に基き結果の教育的研究に従事
しつつあり此の研究にして完了せば郷土に立脚し而

二十七日早朝より來校終日全學級の授業參觀其の他教育一般に亘り詳細なる檢閲を行ひ午后三時半より全職員に對して講評並に指導を試みたり

●明倫小學校來校視察者調

二月中に於ける本校視察者の主なる者左の如し
廣島逓信講習所下關支所教官下渡藤市山口縣萩中學校教諭岡庭秀男香川縣綾歌郡法勤小學校德永茂一同郡川西小學校教員大平定次同郡富熊小學校教員土居三郎阿武郡三見小學校田中惣一外教員二名同郡六島村大島小學校教員津村匡夫山口縣小郡高等女學校長塚越文雄外職員生徒三十名山口縣視學弘中傳人香川縣富田小學校教員村井連祐同縣富田小學校教員常包武雄同縣長炭小學校教員北角庄七第一艦隊司令長官海軍中將山本英祐同副官犬塚大佐

●明倫女子青年團例會

明倫女子青年團は二月九日午後二時より明倫校内に

於て例會を開催團長の講話後家庭菓子製法の講習を行ひ午後四時半散會せり

●阿武郡教員會第一部會
尋六同學年會

阿武郡教員會第一部會主催尋六同學年會を二月十四日午前九時より明倫小學校に於て開催當日の參加職員は河村椿東校長外四十餘名にして第一時限尋六各學級の自由參觀第二時限尋六男禮組擔任富田訓導の讀方實施授業あり終つて午前十一時半より本校々長の學校經營に關する講話に引續き本校尋六擔任山中訓導の勤勞教育に於ける現代教育思潮の研究發表等ありて一時休憩し午後一時半より授業の批評會に移り各研究討議の後午後五時閉會せり

●椿東校月頭參拜

椿東校に於ては敬神崇祖の念を養ふ爲本月より毎月一日兒童各自の神社參拜を實施することとし、第一

月曜日の早朝松陰神社其の他最寄の神社に參拜祈願を捧げたり

●椿東校書方科特別指導

萩商業學校教諭有田政尙氏を招聘し二月二日より一週間、尋四以上の書方指導を行へり

●椿東校御眞影奉戴

椿東校に於ては二月七日御眞影を奉戴、職員、兒童共校門前に整列奉迎し、午前十一時より奉戴式を舉行せり、當學區内有志者六十餘名參列、兒童は各學級別に御間近く奉拜し無事奉戴式を終了せり

●椿東校手工品展覽會

二月十一日紀元節の佳節に當り全校兒童の手工品展覽會を開催せり、出品約四百點、自由製作品中優秀なるもの多數ありたり

●椿東校御安産祈願參拜

二月十二日 皇后陛下御安産祈願の爲職員、兒童一同松陰神社に參拜せり

●椿東校進學兒童保護者會

二月十三日午後二時より中等學校に進學する兒童の保護者會を開催、參會者約四十名に達せり

●椿東校祈年祭參拜

椿東校に於ては二月二十日松陰神社祈年祭執行に依り午後一時職員、兒童一同參拜せり

●椿東學事視察

椿東校小島訓導は二月十二日より一週間、防長教育會の依頼に依り鳥取、島根兩縣下の學事視察を爲せり

●椿東青年團寒稽古

椿東青年團に於ては二月十五日より一週間、松陰神社記念館に於て毎日午後七時より寒稽古を開催、二十一日終了式を舉行せり終了者六十七名なり

●椿青年團主催椿青年講座

一月三十一日夜第二十一回講座を椿西小學校に於て開催、講師萩中學校教諭村岡徹介氏は、講話題目「紫外線に依る物質鑑定及其の應用」に關し實驗と説明とを試み來會者に多大の興味と知識とを與へられたり

二月二十八日夜第二十二回講座を同校内に開き講師森田萩町農會技手は農會の使命に就き講話あり來會者一同は有益なる知識を得盛會裡に退散せり

●椿青年團劍道練習會及大會

二月一日より同十月まで十日間田邊喜代士氏を招聘し團員全部の出席を強行して夜間劍道寒稽古を兼ね

て之が練習指導を行へり引續き同十一日紀元節當日午後一時より劍道大會を開催し午後五時半盛會裡に終了せり

●椿西小學校學藝會

同校第四回學藝會は二月十日午後一時より開催來校者多數、同四時盛會裡に終りを告げたり

●椿女子青年團修養會

二月七日及び二月十四日、十五日の兩日椿西小學校裁縫室に於て講師山縣貞一氏を聘し作法の實習指導を行ひ團員一同裨益する所ありたり

●明倫圖書館閱覽狀況 (昭和六年二月分)

開館日數	教員	學生	兒童	青年團員	官公吏	實業家	其ノ他	合計	平均
男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女
二四三	二二三	二五五	五八八	七六六	一七三	二八三	三三三	五〇七	四〇六

●明倫圖書館新着圖書紹介

- 文部省編 孝子德行錄
- 吉村藤舟著 近松門左衛門一編
- 孫中山著 三民主義
- 細木忍編 大富士とその附近
- 白道人著 巨彈は唸る
- 日本太郎編 阿武、大津美禰三郡案内
- 教育講談全集 第三卷、第四卷
- 近世日本國民史 公武合體篇
- 少年技師ハンドブック カメラと映寫機の作り方
- 三月號雜誌 (キング、中央公論、現代、實業之日本、婦人世界、子供の科學、少女俱樂部)

●滿鮮旅行記 (其の六)

萩中學校々長 河内才三

●撫順炭礦。

撫順炭礦は渾河を隔て、撫順城と相對す、撫順炭礦の地は昔、千金寨と謂つて今より六百年前高麗人により採掘せられ、陶器製造の燃料に供せられたと謂ふことだ。清朝乾隆年間政府はその宗祖の墳墓たる東陵北陵に近きゆる所謂風水に害ありとなし、その採掘を嚴禁した、後光緒二十七年(明治三十四年)に至り、清國政府の允許を得て、採掘を開始し、次でその採掘權は露國の極東森林會社の有に歸し、事業その緒に就かざるに、日露の戦役起り我が軍これを占領するや、野戰鐵道提理部の經營に移り、更に明治四十年四月滿鐵會社これを繼承することになつて今日に至るのである。その繼承當時は千金寨楊柏堡、老虎臺及煙臺の四坑のみで、一日僅かに三百噸に過ぎなかつたが、今では大山、東郷の二大堅及大露天掘を初め八採炭所を併せ一日約二萬五千噸昭和三年度には七百三十萬噸、四年度には七百七十萬噸、五年度には八百萬噸を採炭する豫定である云ふ。礦區の面積千八百二十萬坪、長東西四里、巾南北一里に及び埋藏量十億噸、今後百年の命脈がある。炭量最厚四二〇尺、最少七八尺、平均一三〇尺

あると云ふことである。

◎オイルセルの発見と燃料革命。

撫順炭坑の偉大なる價値は、謂ふまでもなく露天式採掘の出来る大炭田であることだ。千金寨古城子の大露掘、東ヶ岡露天掘、大山南坑露天掘である。最近其露掘擴張に伴つて従來の市街を東北部に移すことになつて、移轉工事進行中である。世界で他に露天式採掘のあるのは、獨乙ケルンにある褐炭、米國のウターの銅礦、同メサビイの鐵礦位である。撫順は世界に比類の稀な露天式の大炭礦であることが偉大なる價値を有するのみでなく、又最近に及んで更に驚くべき價値を發見した。それは何かと云ふに從來廢物にされた炭層上の頁岩(油母頁岩)から原油が得らるゝことが出来るやうになつた。撫順炭礦で油母頁岩が發見されたのは明治四十二年の事で大山坑から掘り出した岩石が燃焼するに不審を抱きこれを蒸溜して二パーセント六の油を得たことに始まる。從來放棄せられた岩石から斯くの如く貴重な油が得らるゝことは確かに天來の福音である。滿鐵は目下非常な努力の下にこれが製油設備に八百萬圓を投

じ、昨年工事を起し完成を急いで居る。最初スコットランド式に依る筈であつたが、その經費を成績上より所謂撫順式設備をなし遅くとも昭和五年度には完成する見込みである。現在では一年約七萬噸生産の計畫だが、今後十年にはこれを擴張し一年約三十萬噸の頁岩油を得るならば近年に於ける我國(台灣を含む)の石油全額に等しいことになる、これ實に吾が燃料界の革命であり、海軍用重油を自給し得る關係より國防上にも大なる意義がある。尙副産物として硫安、パラフィン、コークスを得るのであるから實に意想外の富源で、斯業の開發と云ふ事は一日も忽せに出来ない。此の研究と製産設備の主なる功勞者は、明治専門の教授栗原博士と撫順炭礦の技師久保守氏で、その名を忘るゝことは出来ない吾等一行は親しくその久保技師から説明を聞いたのである。

油母頁岩埋藏狀態并收油量。

炭層の上層に厚さ約四百五十呎の油母頁岩層伏在し、その埋藏量五十億噸、その上層は良質にて、下層即ち石炭に近き部分は之れに反す、全層中上

部三分の二は工業原料として用ふるに足りその平均收油率六パーセントである。

◎撫順炭礦發電工場。

瓦斯燃焼及微粉炭燃焼の二發電所があつて、四萬二千キロワットの發電能力を有す、前者はモンド式及リム式瓦斯發生爐、並副産物採取装置を備へ、硬炭を氣化して窒素分をアンモニヤに變化せしめ硫安を製出し、又タールを採取す、瓦斯は汽罐の燃料に供し以て電力を得、後者はホルベック式微粉炭燃焼装置を備へ、石炭を百分の一時に粉碎して、汽罐燃料として瓦斯の如く完全に燃焼せしめて發電するのである、その電力は動力用、電燈用として炭礦内外に供給し尙奉天、遼陽及煙臺に送電するやうになつて居る、送電装置六千キロワットである。

◎諸種の施設。

撫順炭礦業務に従事せる支那人の總數は約四萬五千の多きに上り、年額支拂工賃約八百萬圓に達する。在來滿洲には把头制度があつて、把头が勞働者の賃銀の上前をはねる習慣であつたが、本炭礦では此の制度を打破し、炭礦特有の制度を設け華工(苦

力)本位に出來高拂法により個人計算個人拂とし、把头に對しては部下稼働工賃の千分の百十五を手當として別途支給することに改めた。採炭華工の平均収入は一日四十錢、食費は炭礦直營炊事によれば一日拾壹錢で賄はれる。これ等華工に關する一切の業務は、各採炭所及庶務課に勞働係を置き統制をなさしめて居る。戶籍法なき中國人の取締は最も困難なので、これが取締は指紋法を應用してゐる。勞働者の大部分は山東、直隸出身で、これ等華工の招來業務の爲め青島、濟南、天津、錦洲の四箇所に招工公所が置いてある。その他共濟制度、消費組合娛樂及修養機關があり、又華工の爲めにも扶助共濟、教養工廠、華工歡園等がある。

◎撫順に於ける排日運動。

南滿洲に於ける排日の根據は撫順舊城内にあるらしい。しかも支那人中學校にその本部があると云ふことだ。中學堂、師範學堂その他の青年が排日會と云ふのを組織して居つたが、奉天政府の命に依りその名を救國會と改めた、時々この救國會が舊城内は無論、支那人街頭で盛んに排日演説をやつたり宣傳

ピラを撒布したりする者がある、然るに一般炭礦従業の華工は全く無關心である。一度も勞働争議のやうな事件が撫順炭礦に起つたことはない。滿鐵が支那人の爲めに中學堂を建設し落成式が舉行された時來賓中の支那名士の祝辭の多くには排日的文句が列べられた、曰く「本校の開校は日本の寄附によるが日本は撫順と云ふ我國の富を奪ひつゝあるのである」とその傍若無人の態度は憤慨に堪へないのである。尙支那小學校の教科書に排日的教材が入れてあることは奉天も同様であると云ふことだ。

◎奉天より鄭家屯まで。

五月廿四日午後十時二十分奉天を發し、翌二十五日午前六時四平街に着し、朝食を終り四洮鐵道により鄭家屯に向ふ。四洮鐵道は四平街より鄭家屯（通源）を経て洮南に到る鐵道である。洮南より昂々溪を経て齊々哈爾に到る線を洮昂線と云ふ。四洮線は鄭家屯より分れて通遼に到る、通遼から打虎山までの線を打通線と稱し、いづれも支那經營の鐵道である。久しく現世紀の文化から隔絶せられた内蒙古の富源が、これ等の鐵道で今や開發されたのである。

◎臺灣支那三旬の旅

筒井捨次郎

十月八日九日の兩日臺北で全國高等女學校長會議が開かれたが私もそれに出席することになつた。序を以て臺灣島内各地及び南支那方面の視察を命ぜられたので私は約五週間海の彼方に旅行して來た。その間に随分有益であると感じたこと、面白かつたこと苦しかったこと等澤山あるが、今その内の概要を記して皆様の御參考に供したいと思ふ。

上卷 臺灣の卷

(一) 船の旅

十月五日正午私等一行を載せた朝日丸は勇ましく門司港を出帆した。出發の前に海の上を氣遣つて下さる方も少なくなかつたが、天氣は好し船は一萬噸級の新式船であるし、眞に諺に言ふ「大船に乗つた心地で」何の心配もなかつた。一體日本人は海國民でありながら海を無暗に恐れるが、今日の汽船なれば何もそんなに恐れることはないのである。僕は暴風雨の遠州灘を渡つたこともあるし、雨の玄海灘を

四平街を發した汽車は一路平原の中を行く、茫漠無涯の曠野である。防風と採薪に供せらるべき楊柳がところどころに立つてゐる。低い丘、放牧の牛、馬羊、黒い豚、嚴めしき望樓を建て、銃眼を穿てる民家。その趣が南滿沿線とは大分異つてゐる。鐵道警備の支那兵や警吏が著しく目を惹く。列車内ではボーイが湯でタオルを絞つて持つて來る、支那茶を盛んに汲んで呉れる、その接待振りは感服の外はない。

八面城、三江口を過ぎ、やがて鄭家屯に着いた。驛頭には客待の支那馬車が五六十臺も蟬集し、客呼ぶ聲が鋭く耳に響く。灰色の砂塵濛々たる裡を二頭立の馬車を驅る。鳴る鈴の音も異様に、馬車は我等を滿鐵公所に運ぶ。馬頸に結び付けられたる數個の鈴、馬の馳せるに連れ鳴るその音は、たしかに蒙古の情趣である。砂漠を通ふ駱駝の鈴の音。昔讀んだナショナルリーダーのキャメルドライバーの課を聯想した。

横切つたこともある。船の旅には多少の自信もあつたから、別に何の心配もして居なかつたのみならず今回の旅は団体旅行で、本縣よりも徳山高女の池本君、防府高女の駒田君も一緒であるし、他府縣の百四十餘の校長さん方も舊知の人が少くないので寧ろ非常に樂しみにして居つた位であつた。

甲板に立つて後を眺めると右に門司左に下關彦島の家々は次第に小さくなる。前を眺めると小倉らしい大分煙突が見える。船はすん／＼進む。右手の本縣の方は青々とした山ばかりであるが左手の福岡縣の方は黒煙が盛に上つて居る。新知、舊知の間に話は頻りに交はされる。風は少し冷か過ぎるが寒い程でもない。甲板と船室との間を二三度往復して居る間に短い秋の日は次第に西に沈み玄海灘にかゝる頃に陰曆八月十四日の月が白い淡い姿を東方に見せた。夕食を報する鐘で食堂に下りて晚餐の卓に就いた百有餘人の校長さんも食堂では寄宿舎の生徒と變りはない給仕のボーイが眼を廻す、そんなに急がなくてもよさそうであるが、そこが群集心理でなか／＼落付いて食べて居る人は少い。やがて食事を濟まし

て再び甲板へ出て見ると日は全く暮れて月の光は皎々と静かな海を照して居る。空には白點々たる魚鱗を散らした様な雲、海には眼も眩むばかりの金波銀波、詩人ならぬ僕も何か言つて見度くなる。船員に聞けば多分長崎の沖合位の所を進んで居るのだらうとの事で、彼の松浦佐用姫の事などを思ひ浮べて、

松浦濁月はさやく輝けり
袖振る人の影やいづくに
とやつて見た。

一行中に同窓の友、谷内讓君が居る。大塚の寄宿舍時代によく黑白戦をやつた忘れることの出来ぬ友である。その頃三四目上であつた君とは二十年振りの會合である。今は樺太の泊居の校長である、任地は遠いがキャピンは近い。訪ねると話しは直に圍碁談に落ちる、お互に謙遜の内に天狗が交じる。では一つその後の進境ぶりを試さうと食堂に行つてボーイに頼んで道具を取寄せて始めた互先で三番勝負し馬鹿に景氣がよい。併し白となつてからは形勢が悪い遂に夜が更けたので休戦して寝に就く。
明くれば十月六日今日は一日船暮しである。谷内

君が用事があるので同室の池本君と戦ふ。だんぐん〇士が集る。大分縣佐伯高女の島内君、大分高女の廣瀬君何れも互先のよい敵である。宇都宮高女の富田君も来る。中々盛んなもので一度敗退せば容易に順番が廻つて來ない。退屈だと思つた一日もあれやこれやで譯もなく暮れる。

今夜は明月である。甲板は大賑ひである。船は静かに速く東支那海を走る。月も少し眺めて居ると飽きる。又食堂で戦端を開く、田舎の窓から月が射し込んで船の動く毎に淡い影が盤の上を動く。

支那海で仲秋月下鳥驚戦
とやつて見たが句にはならない。夜寝てからも考へたがうまく行かない。

十月七日朝起きるとボーイより「時計を一時間違らせて下さい」と注意がある、聞けば琉球の八重山群島からは西部標準時を用ゐて居るので、中央標準時よりは一時間違らなければならないのである。今日は早朝より船中會議の招集あり食堂に集る。協議會の下相談である。出て居る問題は分つてあるから委員附託になる。基隆は他室に占領せられたの

で雑談に時を過ごす。午後二時過ぎ島が見わたる。聲で甲板に出て見ると小さな島が見える。船員に聞けば臺灣の北方二十哩ばかり沖合にある膨佳嶼と言ふ小さな岩嶼で無人島であるとのことである。いよゝ目ざす高砂の島も近づいた三日の航海で稍倦怠を覺れた一行は急に活氣づく。

(二) 基隆より臺中まで

やがて午後三時大きな山が見出した、山の中腹には部落のあるも分つて來たと思ふと燈臺が明かに分つて來た。見る間に碇泊して居る船も見出す家も見わたる小舟も通る。基隆港に入りつゝあるのである。「ボー」と汽笛と共に市街の方に近づく、午後四時豫定の通り無事岸壁に着く。僕等一行は上陸せず出迎への方々に案内せられて直ぐランチで港内を一週した。港は相當に廣い岸壁は長く續いて居る。やがて大岸壁から上陸して大倉庫の階上で港の説明を聞く。

基隆は領臺前は左までよい港でなかつたが、領臺後二十四ヶ年の日子と二千二百萬圓の工費を費して築港されたもので、水は深く波は穏かで一萬噸級

の汽船が同時に十五隻岸壁に横着けにすることが出来る、尙港内に六隻を碇泊させることが出来る。そうで碇に良港である。荷揚倉庫も十分に臨港鐵道もあり近世的の設備は十分に整つて居る。併し日本中で最も雨量の多い所で毎日曇天又は雨天であるのは困つたものである。そう言へば僕等の着いた日も小雨が降つて居た。

午後五時半上陸して臺北に向つた沿道に大炭坑がある。基隆より二つ目又は三つ目位の停車場には石炭が山のように積まれてあつた。此の石炭は基隆より支那方面へも輸出するそうである。薄暮臺北に着いた。

八日は早朝臺北神社に參拜した。本島鎮護の宮で北白川宮能久親王殿下等を奉祀せる、官幣大社である。臺北の町を眼下に見下しこんもりとした森の中に鎮座しまするので眞に森嚴な感じがする。

午後九時より臺北醫專の講堂で會議が始まつた。建物は新式ではない薄暗い餘り感じのよいものではないが、ドッシリとした高樓で質實な所はあつた。歸朝後新聞で見ると十一月の下旬火災に罹つたそう

である、今考へて見ると何となくお名残り惜しい氣もする。午前協議會、午後講演、これは九日も同様である。

十日旅程の都合で臺北見物を後にして午前八時南方視察の途に上る。沿線は西部平野である。此の邊は幅は左まで廣くはないが何處までも涯しなく南に續く。多くは米田である。米は第二期作であるから内地より少しく遅れて穂は未だ十分に熟してゐない田の畔には子供に牽かれながらのそり／＼と水牛が歩んで居るのが目に付く。

水牛の歩みのごかなり島の秋。

今年はこの島も豊年らしい。内地で米安の聲を聞いて來て見れば此處も同様である。農家もこれでは堪らない不作でいけず。豊作なれば安い。一體どうすればよいのか眞に同情に耐れない。所々に内地で除り見られない白鷺が下りて居る。特徴のある一本脚で立つてキョトンとこちらを眺めて居る。農夫の惱みに同情して居るらしくも見える。

稔る秋お前も惱むか島の鷺。少し俗な様だ。俳諧修行もなか／＼六ヶしい。

以上になり、臺灣名物の露がかゝるので遠くにある東部の山も見えず眞に大平原の面影がある。正午過ぎ嘉義に着く。

嘉義は西部大平野の一中心で、阿里山登山の要地にも當り砂糖工業の中心にもなつて居るので近年益々發展した。人口五万、阿里山材木の製材所、砂糖工場及び義人吳鳳廟等が名物であり名所である。市街は雜然たる新開町である。

十一日嘉義で一泊して翌朝未明阿里山に向つた。

阿里山鐵道は輕便で竹崎まで十餘哩は平凡な平地を行くのであるが、此處から愈々山林鐵道となり材木運搬が主で、乗客の便乘を許すが危険の保證はせぬと言ふ物騒なものである。併し迂餘曲折急勾配のトンネル續きの山道を登ると眼界は愈々開け、景色は遠く展開して痛快である一箇の山を三回も旋回して螺旋狀に登りやがて奥へ進むと竹林あり、斷崖あり本橋あり、肝を冷やしながら搖られ行くこと九時間にして海拔七千三百尺の沼の平（阿里山の中心部落人家多し）に着く。

途中遠く山の彼方の溪谷に蕃社も見える。沿道の

正午過ぎ臺中に着いた。臺中市は新開地である都市計劃はよく出來て街路井然、大通りはアスファルト舗装で眞に氣持がよい。併し未だ若い、何處か物足らぬ所もある。通行の人も少い。人口五萬程度である。

大きな公園（二萬六千坪）立派な學校（師範學校工費七十二萬圓）廣い運動場（約一萬坪）高い銅像（兒玉源太郎伯及後藤新平子爵）と言へば大抵分るだらう。此處の名物は上水道水源の大井戸である。直徑二十五尺深さ五十尺滾々と湧く清水、轟々と汲上げるポンプの音、こんなのが二個並んで居る。側に寄れば一寸物凄しい。今一つの名物はバナ、市場である附近で栽培されてある。年二億五千萬斤のバナ、が本市に集つて來て四日目毎に大市が立つ。儘に壯觀であるそうなが生憎開市日でなかつたので見られなかつた。

(二) 臺中より臺南まで

十日は臺中で一泊して十一日朝八時過ぎ南行嘉義に向つた。兩側の平野は急に廣くなり前後左右全く地平線まで平野が續いて居る。此處では幅も二十里

停留場には蕃婦も出て來て居る。兩側の草木は麓には熱帶種中腹には亞熱帶種、山頂には溫帶種と漸次交替する所博物學者でなくともなか／＼趣味がある。

名物神木は沼の平の少し下にあり、樹齡三千年地上周圍百十三尺、枝下四十五尺、材積千八百石眞に巨大なものである。

神宿る深山の老樹三千年の

世の起き伏しを如何に見つらん

尙此山にはこれに續く大木も少くない。

明治神宮一の鳥居に用ゐられた大檜を出した塔山は沼の平の前面にあり、高さ三千餘尺幅一里近くもある大斷崖をなし、それには無數の岩層の理紋横に斜に伸びて居る。巨巖は英雄を思ふ

丈夫心事君若問 笑指塔山魔天巖

とやつて見たが物になるか、ならぬか自信がない。それより十年の役西郷の心事に譬へて

空高くそびゆ巖の心にも

千々に亂るゝ文あるものを

此方が少しよい様だ。

翌十三日最高峯八千三百六十餘尺の祝山に日出及び新高山の朝姿を見んとて午前四時を衝いて山道を登る。夜は明けた。三十分一時間と時は経つが待てども待てども、ごちらも顔を見せない。此邊特有の名物霧の海と言ふ濃霧で數丁先も見えない。地圖繪ハガキと比べて心の内に新高の姿を描き午前七時しびれを切らして宿に歸る。

高砂の高嶺をこむる朝霧も

心の新高山は蔽へざりけり
と負惜しみを言ひながら下山の汽車に乗る。嘉義にて縦貫線南行列車に乗り換へて臺南に向ふ。

嘉義より約一里ばかり南に進むと右側に北回歸線標と言ふ大きな石の標柱がある。此處を越れば愈々熱帯である。心のせいかな暑さ次第に増す。甘蔗は非常によく茂つて居る。併し風は割合に涼しい。農夫は甘蔗の蔭に休むものあり、その内に十四五歳の少女の心地よげに假睡して居るのを見た。

高茂る甘蔗の蔭葉に乙女子は

夢路たどれり樂しき里に
甘蔗と米との涯しなき曠野を走ること三時間夕方臺

しいメインストリート大正通りは鳳凰樹(合歡樹に似た木)が車道の両側に生ひ茂り葉を一杯に擴げて街路を蔽ひ、清楚な花は點々と咲いて熱帯の暑さを和げて居る。市の自慢の一つなる大公園は四萬五千坪の面積を有し巨木多く廣大な清泉には睡蓮咲き匂ひ全く臺灣では唯一の雅致ある公園である。

(五) 高雄と屏東

十五日早朝臺南を出發して高雄に向つた。高雄は舊名打狗で、古い港であるが更生したのはつい近頃のことである。二十年の歲月と壹千七百五拾壹萬圓の巨資を費した大築港が出来上つたから又若返つて今や發展の勢すさまじいものがある。都市敷地の廣いこと臺灣の内部の宏大なことは基隆以上でその將來は甚だ多望である。港の喉頭壽山より見下せば一萬噸級の巨船十餘隻を一列に並べることが出来る。長蛇の如き大岸壁、之に沿ふ臨海鐵道、大倉庫、大起重機など錯綜し近代式の良港たる面影躍如たり。又都市計劃の整備したる井然たる道路、工事中の官廳、大商店、大工場等の足場たる所に在り。大高雄市建設の市民の活氣横溢して居るのが分る。午後此

南に着く。

(四) 臺南と安平

十四日は終日舊都臺南及び舊港安平の見學に費す早朝先づ臺南神社に參拜す。此處は北白川宮殿下御薨去の處で側に御終焉の民家あり、記念の遺物を陳列して居る。

島護る御惠深き心もて

神去りませし跡をたふさき

次に三世明の爲めに孤忠を守り力竭くるとも屈せざりし鄭成功一族を祀れる開山神社に詣でた。

日本の本の血しほを享けし種なれや

今も薫れり島の楠木

孔子廟、赤炊樓(和蘭領時代の官廳の跡)等を見學して運河に沿ふて西に走り安平港に行つた。古の名港も今は寂れて見る影もない。寛永の昔濱田彌兵衛の武勇の跡、赤炊城(和蘭領時代のゼーランド城)を訪ね邦人發展の古を懐び又々三百年間の鎖國を呪ふた。

秋水の涼味見せたか彌兵衛さん。

川柳の積りであるがどうも勝手が違ふ様だ。古い市街は支那風でゴタ／＼として臭氣もあるが新

所を辭して東方屏東に向ふ。途中南臺灣の大河下淡水溪を渡る。護岸工事なき砂礫の大河原は勝手氣儘に擴がり東洋第一の大鐵橋を架けさせて居る。長さ千五百七十七米(約十四町)橋脚二十四、鴨綠江のよりも五百米以上も長い。此邊開拓十分ならず。人口も稀疎である。新銳の士の來るのを待つて居る。午後三時屏東に着く、屏東は元阿喉と稱し臺灣中でも最も暑い都會である。土地の人の話ではお正月でも裕の必要がない、年中浴衣でも暮せないことはないそうである。農業學校で椰子の實の液汁と木瓜を御馳走になる。何れも美味しい。此處まで來ねば眞の熱帯氣分が味へない。臺灣の最南端鷺鷥鼻までは自動車で數時間に過ぎない。郊外に蕃社があり蕃人も居る一寸蕃屋を窺き彼等の生活を觀察した。

(六) 角板山(蕃界)

屏東から夕方高雄に引返し此處で縦貫線に乗換へて夜行列車で北行し早朝桃園に着く、此處は新竹州の一寸した町であるが雨も降るし見物は畧して自動車で東南大溪に向ふ。大溪は中央山脈の麓で淡水河に臨んだ蕃界の咽喉に當る都會である。

大溪よりは山道で自動車は通らない。臺灣名物の臺車(トロッコの小さな様なもの)に寄るより外はない。

崎嶇羊腸たる小徑を進むこと數里で蕃界と言ふ立札がある山は愈々險峻で溪は愈々深い。併し木は茂つてない所々に茶畑がある。三井の製茶場も見られる。かくて更に進むこと數里で廣い溪谷に平たい高臺がある。日本式住宅、臺灣式住宅、蕃社式茅屋が集まつてある。角板山である。蕃界の都角柳山には警察官その他の官舎も十數戸あり本島人も百人近く住居し蕃舎も標本的のもの數軒あり。蕃童教育所物品交易所もあり、數百に近き櫻もよく育ちよい所である。教育所の授業を見る。三十名ばかりの男女の蕃兒は熱心に學習して居る。習字も相當に巧い。唱歌も歌ふ。本も讀む。それより感心なのは話方である。大きなのも小さいのも國語は手に入つたものである。教育の任に當られる警察官の御苦心も察せられる。蕃屋は竹の壁竹の屋根の掘立小屋である草の屋根のも奥地にはあるらしいギョロリと凄い眼をした蕃人、トラホームでシヨボク、眼した蕃婦が居る。臭

くて汚いが洗つて見れば内地人どよく似て居る様だ休憩所でお茶の給仕に出た十四五歳の少女は清潔な日本服で愛に富んだ顔をして愛想よく働く所全くその家のお嬢さんと同違へた程である。聞けば教育所の卒業生であるそうなる。名物鐵線橋は上からのぞいて午後二時又々臺車で引返す。今度は下りだけにスビードは大であるが少しも油斷が出来ぬ。大溪に着いた時警備隊の解散式があつた。愈々蕃界も靜穩なりとの見極めがついたらしい。

(七) 臺 北(再び)

十六日夜は臺北の馴染旅館で足を伸して汽車の疲れを醫した。十七日より往路残した臺北市外の見學である。總督府、博物館、第一中學校、專賣局、第一高女、第三高女、工業學校、臺北大學等は建物の大きいと言ふだけの印象で多く言ふ所がない。公園には熱帶植物が多い。コンクリートのドームの中に神社のある建功神社は臺灣の招魂社で、内地人も臺灣人も合祀してあるだけに内臺折衷式である。臺北橋は淡水河に架した大鐵橋で長さ四百三十二米工費百五十萬圓をかけたもので慥に壯觀である。

西北郊外の芝山巖は領臺當時内地人教育家が土匪の難に斃れた所で名高く、草山と北投とは温泉で名高い。臺灣にも靈地も在り仙境もある。市内には城内、萬華、大稻埕及び城外新開地等より成り城内及び接續新開地には内地人多く他は本島人が主である城内は大官衙區と商業區とあるが商業區には煉瓦又はコンクリートの三階建て道路はアスファルトで舗装せられ一寸東京の丸の内と銀座とを接續させた様で、なか／＼立派な都會である。目下人口二十二万(内地人六万)を有し内地の六大都市に次ぐ福岡、廣島等と匹敵する、大都會である。(以下次號)

産 業

◎産業相談所設置

産業の振興生産の増殖等に資する爲左記要項に依り當町役場内に産業相談所を設置し當業者をして之を利用せしむることとせり
因に右相談所は三月十日より開始の筈なり

- 一、萩町内産業の進展を計る目的を以て萩町役場内に産業相談所を設く
- 二、萩町内の産業団体若は當業者にして産業施設上に關し研究及調査を要する事項に付ては須らく本相談所を利用し直接面談の方法に依り其の目的の達成に努むること
- 三、本相談所に於て決定若は解決することを得ざる事項あるときは専門技術家の意見を徴し又は其の實地指導を受くること
- 四、本相談所の開設時間は毎週火木土曜日午後三時より午後五時迄とす
- 五、本相談所に於て研究及調査を遂げたる重要な事項は隨時萩月報に依り其の成績を發表し一般の資料に供すること

◎萩町椿耕地整理組合役員

選任

二月十日山口縣告示第八十九號を以て左記萩町椿耕地整理組合役員選任認可の件公示せられたり

組合長 田中俊甫
 副組合長 幸崎源重
 同 大山芳雄

●萩町鶯谷農事組合第三回總會

椿區鶯谷農事組合第三回總會は二月二十六日午後八時より鶯谷公會堂に於て開會昭和五年度後期に於ける事業及決算の報告、組合規則の改正變更等を附議し引續き役員の任期満了に付改選の結果左の諸氏當選せり

組合長 山本 幾一 副組合長 石丸三千祐
 理事 杉山 清一 福山 市熊
 監事 好川 米太 赤木 新古

●雁島製簾工場事業開始

數々ある竹細工品の内竹簾は其の産額に於て主要の位置を占め又其の産地は大阪京都を主とし之に次ぐ

工培養の方法に勵み一層長州竹の聲價發揚に努むべきである

右工場に於ては目下能率増進の爲縦覽謝絶中に付隨時の縦覽は遠慮せられ度自然縦覽希望の方は同工場事務員又は町勸業課迄豫め申出でられ度し

●第二回滿洲見本市開催

一開催の時期及期間

昭和六年七月二十四日より三日間

二開催地

第一回同様大連市に就て開催

三、主催者及後援者

當分は滿洲輸入組合聯合會之を主催し本見本市の基礎確立を待つて出品者を糾合せる團體之を主催す

後援者は關東廳滿鐵會社大連市役所大連商工會議所、大連、小崗子華商工議會とす

四、出品者

出品者は主管官廳の推薦したる貿易商品の製造家

ものは群馬、兵庫、三重、愛知、熊本、大分、香川福井の諸縣にして各縣共一萬圓以上大阪の如きは約三十萬圓の産額を見つゝあり之に反し豊富なる原料を有する當地方に於て今日迄是等の製簾業に着目せられざりしを頗る遺憾とし實現を熱望中昨秋來之が起業計畫を目論まるゝことゝなり既に工場の建築を終へ去月末を以て機械三十數台を備付け本月上旬より事業を開始することゝなれり這は竹林所有者は勿論一部失業者に取り一大福音を齎らすものであるから町に於ても之が成功を祈る次第である

目下の處は簾の原料製作のみに止め之を主産地京阪方面へ移出する計畫となれるも將來當地に於て之が加工完成品と爲すの有利なるは論を俟たず町勸業獎勵上是非實現を希望するものである其の機械は皮剝機竹割機、裏すき機、本機の四種に別たれ能力良く捗り而も頑丈にして一度び本機に接したる者は皆其の力の偉大なることを驚嘆しつゝあり

右に要する材料は主として六寸竹以上の若竹にして手入の行届きたる竹林より産する竹材を特に歓迎さるゝに依り竹林所有者は此際原始的竹林を改良し人

及販賣業者に限る

五 出品部門別及會場

第一部 家庭用品、大連取引所、二階、三階

家具、裝飾品、建築材料、金物製品、瑛瑯鐵器硝子製品、壘表、陶磁器、漆器、錫器電氣、瓦斯器世帶道具、自轉車、文房具紙及同製品、樂器、度量衡、玩具、運動具、染料、塗料等

第二部 服裝附屬品、大連取引所四階

絹、人絹、毛綿、麻織物、綿花、莫大小類、和洋服、附屬品、毛布、運動作業服、婦人子供服、帽子類、洋傘、シヨール、履物類、革及ゴム製品、小間物、刷子、釦類、縫糸レース製品、眼鏡時計及貴金屬、セルロイド製品、化粧品、石鹼等

第三部 食料品 大連商工會議所

酒、味噌、醬油、調味料、茶漬物、罐詰、乾魚、鹽魚、雜穀、果實、蔬菜、菓子、藥品（工業用を含む）等

以上の外詳細は本町勸業課に就き承知せられたし。

●鑛區登錄

鑛業法に依り試掘願を許可せられたるもの、内萩町關係の分左の如し

登録番號山口三、六五五 鑛區所在地 明木村、川上村、鑛種、金銀銅、砒 面積一三一、〇〇〇坪 鑛業權 萩町國重政亮

●茶の害虫驅除劑に就て

其筋より左記の通茶の害虫驅除用として砒素劑の使用を禁止する旨通牒ありたるに依り宜しく注意せらるべし

近時茶の害虫驅除用として砒素劑を含有する藥劑を使用する赴なるも該藥劑を撒布せる茶葉は撒布後卅日を経過したる後に於ても其の摘採製造せるものには尙相當量の砒素を検出し得ること最近の試験成績に依りて明白となり右製茶の衛生上に及ぼす影響に付ては暫く之を措き本邦製茶の輸出先中には飲食物に砒素を含有するものは其の輸入を禁止し居るものも有之由現に本邦産製茶業に對し本劑を用ふるに於

ては將來製茶の輸出貿易上に及ぼす影響不尠と被認たるに付爾今砒素を含有する藥劑は茶の害虫驅除用として之を使用せしめざる様其筋より通牒の次第も有之に付貴町内當業者に周知方相煩し度

●朝顔の現在と將來

巴城朝顔會朝顔は所謂變化物と大輪物との二つに分たれる徳川時代や明治時代、その栽培の隆昌を極めたのは主として變化物であつたが現在の朝顔は主として大輪物である變化物は東京の朝顔研究會や禮久會の人々と神戸に僅少の栽培家がある位のものであるが大輪物の栽培は全國的大流行を來たしてゐるのである
今日大輪物で最も珍重されてゐる品種は名古屋で作出せられた黄蟬葉種と大阪地方で作出せられ青の班入鋏形千鳥葉種である黄蟬葉種はその枝蔓が徒長しないのでしまつて出来るので名古屋式京都式の盆養作平安作といつたやうな切込整枝法の作り方に適してをり青班入鋏形千鳥葉種は枝蔓徒長性であるから大

阪式の支柱を用ひて整枝する作り方に適してゐる而して黄蟬葉種は花徑六寸内外で青鋏形千鳥葉種は七寸内外であるから大輪といふ点に於て黄蟬葉種は到底青葉種に及ばないし黄蟬葉種は徒長しないと言ふことゝ色彩が頗る鮮麗であるといふ特色を以てゐるから決して棄つべきものではない現在我が國に於ける大輪のレコードは七寸三分といはれてゐる或る種苗店の新カタログには七寸五分、七寸八分の新レコードがあるやうに書てあるが營利的宣傳は直に信用することはできないしかしながら廿年前に五寸咲を最大（明治三十六年に大阪に六寸二分のレコードあり明治三十九年に名古屋に六寸のレコードありといふ）としてゐたものが今日七寸以上になつてゐるのを見れば正八寸咲を出すのもあまり遠き將來ではないと思はれる

今日の大輪咲に於ける缺點は黄蟬種でも青鋏形千鳥種でも辨が切れ易いといふことである是等の大輪種を作つて見て誰でも遺憾に思ふのは折角大輪に咲くことは咲いたが輪の一つか二つの切れがあることである將來の大輪種の改善の第一目標は切れない巨大

輪を作出することであると思はれる

青班入鋏形千鳥葉種は前に述べた如く今日我國に於ける巨大輪種であるが色彩の見事なものが少ない今日では色彩の稍面白いものも作出せられたやうであるがしかし輪の大きさは單色物に及ばないさうしてその鮮麗さはどうしても黄葉種に及ばない
色彩の最も進化したものは吹雪であるといはれてゐる次は縦縞で吹掛絞りも單色よりは進んだものである輪の縞半は吹雪のあらはれたもので最もよいとされてゐるやうである覆輪やぼかしも素人には一寸すかれるけれども品評會などでは單色と同じに扱はれてゐる覆輪種は優性で同所に栽培すると他の進化した色彩のものを自然交媒し覆輪化するさうである要するに將來の大輪朝顔は枝蔓徒長せず色彩鮮麗でしかも切れない巨大輪に咲くものでなくてはならない
尙今日は大輪々々といつて輪の大きさを望むのあまり殆んど他を顧みるの暇がないといふ有様であるがその枝振り木振り即ち草姿の優雅といふ點に將來は大いに注意すべきものではないが行燈作りの如きは

大輪に咲かせるにはよい仕立方であらうが雅味が至

つて乏しい又京都の數咲作りは四寸五寸の花を五輪十輪と一度に咲かせる作り方で之もまた面白いものである

大輪の新レコードを出すこともより朝顔栽培家の力むべきことであらうが一面草姿等を研究して朝顔本来の特色たる優雅の趣を發揮させるといふことも忘るべからざるであらう

變化物は今日衰退の傾向があるけれども栽培して趣味多きことは大輪種の比でない將來必ず大いに復興の時あることを思はれるのである

◆大輪朝顔栽培法の研究

一、場所

朝顔は熱帯原産の植物といはれてゐる随つて光熱を好むことが殊に甚だしいのであるから朝顔栽培家は如何にして多くの光熱を興へやうかといふことが第一に考へねばならぬ事である、それには先づ場所を撰ばねばならぬ即ち朝から晩まで太陽の光熱を受け得らるゝ所が朝顔栽培の理想的場所である多くの植物殊に盆養物は西日には當てぬがよいとされてゐるが朝顔だけは別であるとして直接

收する點からいつて黒に近い方がよい以上の美點を供へてをるといふので今日最も多く使はれてゐるのは丹波焼であるしかしこれは丹波焼の質がよいといふばかりではなく朝顔栽培の最も盛んな京阪に近いところに産出するからであらうこの附近でも右に近いものを作り得らるゝのであらうと思はれる

三、培養土

培養土は各地各人によつて多少の違いはあるが大體に於て同じものなる即ち

膨軟であること

排水のよいこと

保水力のあること

相當肥料分を含んでをること

からいふ土がよいそれには腐植土が最も適當してをるがしかし腐植土ばかりでは膨軟に過ぎて徒長せしめる憂があるからこれに眞土を加へる必要があるなほ腐植土と眞土のみでは固まつて水拔りを妨げることがあるからこれに川の荒砂を加へる腐植土といつても色々ある葉腐土もあらうし木葉の

大に置かずと必らず臺を設けて置くべきである臺の高さは二尺五寸以上がよろしい周圍に樹木垣塀などがあれば尙その高さを増す必要がある
臺をトタン張りにすればこの反射熱を受けるから一層よいといふことになる場所の狭い大都會では屋上栽培が盛である

二、用鉢

用鉢の大きさは大阪式の行燈作りでは七寸鉢が最も適當とされてゐる高さも六寸五分位で直径と余り違はない位のものがよい

名古屋式京都式では直径六寸位のものが用ひられ都では稍腰高のものが使はれてゐるこれはその仕立方の相違によつて自然そうなるのである

なほ大阪風の作り方では養苗時代の小鉢が必要であるこれは徑四寸位のあまり深くない鉢が適當である鉢の質は稍荒土で作つた素焼の焼しめで少し厚手のものがよろしい(素焼に薬のやうな釉を使つたものも使はれてゐる)さうして色は光熱を吸

腐つた所謂腐葉土もあり塵溜の腐つたもの即ち種々の雑物の腐敗したるものに土砂の多く交つたものもあるこの中で朝顔には葉腐土が最もよいよく腐敗しをれば腐葉土でも塵土でも一向差支はない眞土といつても又色々あるが稍粘質で黒味のある土がよろしい普通田土が一番よいとされてゐるが畑土でも黒色の壤土なら十分である

砂は川砂がよろしく海の砂はわるい米粒大の荒砂が最もよい小砂は少々は含んでをるのはよいが多ければ篩にかけて除かねば水拔きを悪くして砂を混する目的に反することになるさうして以上三つの配合量はその賦によつて加減せねばならぬが大體

腐植土 六 眞土 一 川砂 三

位のものであるこれは本植に使用するもので養苗時代は苗を徒長させず堅實なるものを養成するのが目的であるから腐植土と川砂の量を反對にすればよろしい

腐植土を作るには葉なればこれを軽くほぐし堆積して濕氣を興へておけば漸次腐敗する時々切返し

て水分を與へることが最も必要である速成的に糞腐土を作るには四つ位に切りよくほぐして固まりのないやうにし四五寸堆積しては糠をふり風呂水の如きものをかけまた四五寸堆積して前の如くし層々積んでこれに被覆をなし日光と雨に曝さぬやうにするかくすれば数日にして發熱する發熱すれば乾燥するから更に切返して水分を與へまた元の如くしておくかくすれば容易に腐敗するものである尙一層速成するには醱酵素を加用すればよろしい又前記糠や水の代りに人糞尿を用ひてもよろしいしかしこの糠や人糞尿を用ひたものは多くの肥料分を含んだ土となるから後に施肥等の量について考慮する必要がある

腐葉土を調製する方法も糞葉土と同じであるが糞よりも木葉は腐敗しがたいものである

又森林の落葉の自然に堆積腐敗したものや塵土を使用する場合には篩にかけたものを更に堆積して水分を與へ、充分よく腐敗せしむる必要がある、朝顔は他の菊その他の草花と異なり、僅に二三ヶ月にして開花するものであるからその用土は十分

熟したものがよろしいのである(糞は腐敗し易いものであるからそれで朝顔用土として適當であるとせられるのである)

四、肥料

朝顔栽培で今より準備を要するものに肥料がある朝顔を栽培するには普通乾燥肥料(又は練肥)と水肥を用ひる水肥には油粕一升水一斗を入れて腐敗せしめたもので時季にもよるけれども使用一ヶ月前に用意すれば十分である乾燥肥料とか練肥とかいはれるものは早くより準備して十分醱酵腐敗させて危険のないやうにしたがよろしい乾燥肥料の調製量は

- 油粕 一升
 - 魚肥 一升
 - 米糠 一升
 - 大豆粕 一升
 - 土 二升
 - 過燐酸石灰 三合
 - 醱酵素 五匁
- 備考 醱酵素發賣所は

東京市外上澁谷町一一九 大日本醱酵素株式会社

振替口座東京七〇五七四

東京市麴町區丸ノ内仲通一一ノ六

國際興農社

振替口座東京六五、一七二

小袋一圓十五錢 送料十八錢

煉肥といふのは普通

油粕 七升 米糠 二升

藁灰 一升 土 一斗

これをよく混合して水分を與へ醱酵腐敗させたもの以上の肥料はその分量施肥の方法等について十分研究する必要があるがそれは施肥研究の際に譲り今回は製肥の方法のみに止めておく尙この乾燥肥料は朝顔のみに限らず他の菊その他の草花類盆栽類にも使用せられて甚だ便利なものである

●今月の園藝行事

野 菜

下種 本月中下旬には冷床に胡瓜、蕃茄、南瓜、西

瓜、茄子、準人瓜を蒔く彼岸前後には人蔘、午茅、葱、春蒔甘藍、花椰菜を下種す

移植

促成茄子は本月中下旬本葉四葉位になつた頃から第二回の移植を爲す

胡瓜は上旬までに第一回を行ふ

育苗中の施肥は生肥は絶対使用してはならぬ

玉葱、草苺等に充分肥料を施す

果 樹

栽植 先月に行はざりしものは本月中旬までに又夏

蜜柑は本月中下旬から初める

剪定 先月中に終らざりしものは早く之を行ひ夏蜜

柑の剪定は本月中下旬から初める

病害虫の驅除豫防 落葉果樹にして未だ薬剤の撒布

なきものは本月中に之を行ふ

苗木の養成 本月は貯蔵して置いた穂木を取出し接

木挿木を行ふ

摘果及袋掛 枇杷は本月中下旬に摘果し袋掛を行ふ

花 卉

下種 クロシキニヤ 球根ベコニヤ

挿木 カーネーション マガレット セラニーム

下種 本月中下旬には冷床に胡瓜、蕃茄、南瓜、西

移植 先月中に挿木播種をしたカーネーション、石
クシヤ、ゼラニウム等の移植を爲す
露地に下種するダリヤ、カンナ、グロシキニヤ、コ
スモス、天人菊、鶏頭、日向、金蓮花等の下種を行
ふ

●昭昭六年二月中萩港輸出入貿易

品名	輸出の部	價格	噸	仕向地
蔬菜漬物	一一一	〇〇	二屯	關東洲
蜜柑	七〇	〇〇	〇	同
其他食料品	八〇	〇〇	〇	同
竹材	一三〇	〇〇	〇	同
丸太割材類	八二〇	〇〇	五三	同
木製玩具	五〇	〇〇	〇	同
計	一、一八八	〇〇	六八	
累計	三、一四九	〇〇	一六四屯	

輸入の部 大日本海運物産株式會社

無し
累計無し

●昭和六年二月中町立萩魚市場賣買取扱高

區分	本月分賣買取扱高	年度内累計
萩魚市場	四、七三〇	四七、三三〇
越ヶ濱出張所	一三、五三三	一七、五九三
玉江出張所	四、七三六	六、四二七
	六〇、二七五	七九、五四七

●二月中の氣象

氣温平均	最高氣温	最低氣温	雨	雪	量
六度六八	八度五八	二度三〇	一一	五	耗一〇

●二月中風向觀測

北	北東	東	南東	南	南西	西	北西	靜穩	最多方向
七	一	一	四	一	一	四	一〇	三	北

●二月中天氣類別日數

種類	快晴	晴	曇	雪	霰	雹	霜	濃霧	雷	地震	風暴	最高	最低
日數	一	二	二	四	二	一	一	一	一	一	一	一	五

●物價

品名	單位	本月平均物價	前月ニ比シ騰落
中米(白米)	一石	一七〇〇	落
裸麥(精白)	一石	一三〇〇	同
大豆	一石	一五〇〇	同
白味噌	一貫	九〇〇	
清酒(中等品)	一石	一一〇〇	
白砂糖(洋)	百斤	一九〇〇	
赤砂糖(洋)	百斤	一六〇〇	落
鯉節(土佐)	一貫	一四〇〇	
牛肉(中等品)	百斤	八〇〇	
鶏卵(地卵)	百個	三〇〇	落
牛乳	一升	八〇〇	

昭和六年二月

財政經濟

●昭和六年一月分納稅成績

一月分の納稅は田租第一期分宅地租第二期分及所得稅第三期分同附加縣稅の四種にして内田租は完納となり宅地租所得稅及同附加縣稅にして滞納となりたるもの左の三十六區なり

土原第一區、土原第三區、橋本町區、御許町第一區、唐樋町區、江向第三區、江向第四區、平安古町第三區、吳服町油屋町區、北古萩町第二區、瓦町區、米屋町區、東田町第二區、西田町區、上五間町區、熊谷町區、濱崎町第二區、濱崎町第三區、濱崎町第四區、椎原區、船津區、香川津東區、同

西區、同南區、同北區、鶴江第一區、後地區、後小畑區、越ヶ濱第二區、同第三區、笠屋區、椿町區、青海區、東木間區、山田第一區、山田第二區

●昭和六年度町税賦課率

本町會の議決を経たる昭和六年度町税の賦課率左の如し

一、地租附加税

宅地租金壹圓に付金貳拾九錢六厘八毛、其他地租金壹圓に付金六拾九錢九厘六毛

一、特別地租附加税

地價金壹圓に付金百分の參七圓の百分の八四、八

一、營業收益税附加税

營業收益税金壹圓に付金六拾參錢六厘

一、鑛業税附加税

試掘鑛區税金壹圓に付金參錢

採掘鑛區税金壹圓に付金七錢

鑛産税金壹圓に付金拾錢

一、縣稅家屋稅附加税

家屋税金壹圓に付金五拾參錢

一、縣稅營業稅附加税

藝妓置屋業稅中藝妓税金壹圓に付金六拾錢

藝妓置屋業稅中酌婦税金壹圓に付金八拾錢

その他金壹圓に付金八拾五錢

一、縣稅雜種稅附加税

不動産取得税金壹圓に付金壹圓貳拾錢

機船底曳網漁業税金壹圓に付金六拾錢

演劇諸興業税金壹圓に付金九拾錢

遊興稅及觀覽税金壹圓に付金五拾錢

その他縣税金壹圓に付金九拾七錢

一、特別稅戶數割

一戶當金拾七圓八拾參錢

●自轉車鑑札を無効に

なしたる者

一月及二月中紛失の届出に依り新鑑札を交付し無効の處分を爲したる自轉車舊鑑札番號及住所氏名左の如し

舊鑑札番號 事由 住所 氏名
一一三五四五 紛失 橋本町區 中村 照夫

八七二四二 全 椿町區 高村 義通

八六三八七 全 唐樋町區 高橋 正治

八八九二五 全 堀内第二區 池部 隆美

八八五四〇 全 平安古町第二區 尾崎 孫一

八六一七六 全 唐樋町區 和田 末松

右昭和三年支那事變に於ける勤勞に依り金貳拾五圓を賜ふ

江向第二區

陸軍一等看護卒 樋口 重吉

右昭和三年支那事變に於ける勤勞により金拾七圓を賜ふ

與玉江第二區 海軍三等機關兵曹 井上 作一

右昭和二年、三年支那騷亂事件及昭和三年支那事變に於ける功に依り金七拾圓を賜ふ

吳市寄留

元海軍筆記 境 信一

右昭和三年支那事變并昭和二、三年支那騷亂事件の勤勞により金貳拾圓を賜與す

●救護金下附

中之倉第一區 元陸軍歩兵一等卒 原 義信

大正八年現役として西伯利亞に派遣中疾病に罹り除隊となり歸郷後猶ほ健康回復せざるに依り今回愛國婦人會山口支部より救護の資に充つる爲毎月金拾五圓宛下附せらるゝことゝなれり

濱崎町第一區 陸軍上等看護卒 中村 甚一
下關市寄留 陸軍歩兵一等卒 松村 壽夫
玉江浦第一區 全 西村 龜吉
東濱崎町第一區 全 西村 芳雄

●現役兵入營

右昭和三年支那事變に於ける勤勞に依り金參拾圓を賜ふ

●慰勞金賜獎

冲原區

陸軍歩兵上等兵 宗村 正巳

御許町第一區

全 波多 義一

濱崎町第一區

陸軍上等看護卒 中村 甚一

下關市寄留

陸軍歩兵一等卒 松村 壽夫

玉江浦第一區

全 西村 龜吉

軍 事

●慰勞金賜獎

冲原區

陸軍歩兵上等兵 宗村 正巳

御許町第一區

全 波多 義一

濱崎町第一區

陸軍上等看護卒 中村 甚一

下關市寄留

陸軍歩兵一等卒 松村 壽夫

玉江浦第一區

全 西村 龜吉

東濱崎町第一區

全 西村 芳雄

賜ふ

左記の者は輜重輸卒として夫々頭書の部隊へ入營を命せられたり

昭和六年二月一日 輜重兵第五大隊

前小畑區 金子 義政
越ヶ濱第一區 楢本伊勢松

●幹部候補生入營

専門學校及大學校卒業生として二月一日頭書部隊の幹部候補生として入營したるもの左の如し

歩兵第十一聯隊衛生部 東田町第二區 中村 俊雄
歩兵第八聯隊 神戸市寄留 藤井 一
臺灣歩兵第一聯隊 基隆市在留 岩崎駿太郎
電信第二聯隊 神戸市寄留 井原 信二
歩兵第一聯隊 東京市寄留 大多和義輔

●教育召集者

四月一日より九十日間電信第二聯隊へ教育召集を令

せられたる者左の如し

第一補充兵役陸軍電信兵 大井村寄留 佐々木隆二郎

●陸海軍將校生徒採用

本籍地 萩町大字江向三百五十八番地 今井 忠彦
陸軍士官學校豫科生徒に採用せらる
海軍兵學校生徒に採用せらる
全 萩町大字椿東七百番地 服部 保正
海軍經理學校生徒に採用せらる

●昭和六年度勤務演習召集

該當年表

召集該當者	豫備		後備	
	昭和二年	昭和五年	昭和四年	昭和七年
各兵科長官、士官、特務曹長各部士官、准士官下士	入	入	入	入
(幹部候補生出身者を除く)	入	入	入	入
幹部候補生出身の士官(士官に任せらる資格を有する者を除く)	入	入	入	入

摘要

1 軍に於て其の病疾本表
2 其の他年間の集り
3 他年間の集り
4 必要なる故事

各兵科下士(幹部候補生出身者を除く)	豫備		後備	
	昭和四年	昭和七年	昭和四年	昭和七年
各兵科兵卒(輜重輸卒を除く)及看護卒並磨工卒補助看護卒	入	入	入	入
各兵第一補充兵	入	入	入	入

●昭和六年度勤務演習及教育召集期日

昭和六年度勤務演習及教育召集を命せらるべき主な部隊の召集期日豫定は左表の通にして其の期日に

昭和六年度勤務演習及教育召集豫定期日表

兵種	召集部隊	別		後備		補充兵役
		士官に任せらる資格ある幹部候補生	士官に任せらる資格ある幹部候補生	士官に任せらる資格ある幹部候補生	士官に任せらる資格ある幹部候補生	
歩兵	歩兵第四二六	八月二十七日	八月二十七日	九月十五日	九月十五日	八月十七日
歩兵	歩兵第四二六	八月二十七日	八月二十七日	九月十五日	九月十五日	八月十七日

於て己むを得ざる事故あることを豫想し得る者は豫め事由を具し期日の變更を願ひ出づることを得但し召集令狀の交付を受けたる以後は此の限に在らず
寄留地に於て演習召集に應召せんとする者は其の前年の十一月三十日迄に到着する如く寄留地の市長又は町村長及警察署長を経由し寄留地の聯隊區司令官宛願出づることを得
右期日後寄留し寄留地に於て演習召集に應召せんとする者は情を具し市町村長より寄留に關する證明を受け寄留の日より十四日以内に到達する如く前項の例に依り願出づることを得但し令狀受領後なるときは此の限に在らず

騎兵	野砲兵	野戰重砲兵	重砲兵	工兵	電信兵	飛行兵	輜重兵	經理部	衛生部	獸醫部
五九月九日 十三日 三日 全	五九月九日 十三日 三日 全	五月十一日 十一日 六日 全	七月十三日 二十三日 二十八日 全	五六月二日 全	七月二十日 九月七日 全	六月二十三日 八月一日 全	九月一日 全	九月十八日 全	十一月十六日 全	五月一日 全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全
上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全

野砲五	野砲五
△十一月六日	△十一月六日
△十一月六日	△十一月六日
△十一月六日	△十一月六日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日
五月一日	五月一日

●昭和六年度陸軍簡閱
點呼參會年次表

考備	第一 補充兵	第二 補充兵	第三 補充兵	第四 補充兵	第五 補充兵	第六 補充兵	第七 補充兵
一、歩兵科(計手適任證書所持者を含まず)豫備役の者は二十八日間後備役の者は十四日間召集する豫定なり	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)	(未だ教育せざる者を除く)
二、歩兵科兵卒中の計手適任證書所持者は右歩兵隊に計手と同時に召集す	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
三、特科兵卒中の計手適任證書所持者は該兵科の豫備役の者と同時期に召集す	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
四、期日上△印を附したるものは秋秀演習の要員として召集するものとす	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
五、衛生部士官は本表外徴兵検査執行間に召集す	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
六、青年訓練指導員は部隊毎に成るべく之を一回に召集するものとす	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
七、特に必要ある場合は本表外の期日に召集することあるべし	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
考備	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
一、軍事上必要あるときは本表外の年に於て簡閱點呼を執行せらるることあり	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
二、疾病其の他の事故に因り簡閱點呼に參會せざる者は本表外の年に執行せらる事あり	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
三、寄留地に於て簡閱點呼を受けんとする者は三月卅一日迄に寄留地町村長を経て其の寄留地の聯隊區司令官へ願出つること	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年
四、右願出期日後寄留地に於て簡閱點呼を受けんと	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年	昭和三 年

する者は事情を具し本籍地及寄留地に於ける簡閱
點呼執行期日の各二十日前(本籍地の聯隊區内の
寄留地に在りては七日前)迄に願出つることを得
但し此の願出に付ては許可せられざることあり

◎陸海軍所在不明徴兵終 決處分未濟者

昭和五年に起生したる所在不明の徴兵終決處分未濟
者の内萩町關係の分左の如し

本籍地	氏名	生年月日
萩町九七番地	吉野 與助	二八、一、一八
	長谷川武一	二八、一、一八
	松村 政一	二八、二、一五
	河内 健三	二八、三、三〇
	永野 傳助	二八、五、三〇
	岡 義則	二八、八、一〇
	井町 龜松	二九、二、三
	米原 耕三	三〇、一、二
	藤崎 鶴松	三〇、四、二七
	工藤松次郎	三五、四、一五
	西村 一郎	三五、六、二三
	吉田順一郎	三九、一、一七
	佐々木順一郎	三九、一、一六
	樽屋 喜一	四〇、六、一九
	椋木 常雄	四〇、六、二九
	羽仁 猛虎	三五、二、一五
	池内 春藏	四三、五、五
	市木 義夫	四三、一〇、一三
	山本 光重	四三、五、二五

一二七	宮野 覺一	三〇、一、一八
四五	山内 誠	三〇、一、一九
四六五	岡 正一	三一、一、一一
一一	下瀬 庄介	三一、七、一五
二〇	竹下 武代	三一、二、一六
二〇八	阿座上 茂	三二、五、二八
七五	平岡 敏治	三二、七、二七
六、二九八	上村 義一	三四、二、二七
五三一	眞野 藤一	三五、三、一〇
五、一三六	浦屋 幾松	三六、四、二〇
三、二一三	阿武 四郎	三六、九、一七
六三五	山下太郎一	三七、七、七
三六一	田邊 正一	二八、三、一六
三五	厚東 良照	三一、四、一
一	藤井吉之助	三二、三、二五
六、三七四	廣田 茂	三三、五、一
五八	富賀見宗助	三三、六、一四
一、〇一三	天野 牧真	三三、一〇、二二
二二	八幡原市熊	三四、二、一八
四、六四一	山本 昌	三四、六、五

九日 午前十時より河野萩中學校教諭の「佛教倫理」と題する講話を聴講す

十日 午前十一時より備人溜所に於て備人事務研究会開催取扱事務諸般の研究を遂ぐ

十六日 河村廣島逓信局書記豫算經理状況調査の爲來局十六、十七兩日に涉り調査を遂げ歸廣

二十六日 午前十時より中所囑託講師の修養講話及本願寺布教使三之勇精氏の修養講話を一同聴講す

二十七日 工藤廣島逓信局書記物品理經狀況調査の爲來局廿七、八兩日に涉り調査を遂げ歸廣

二十八日 午前九時半より男子吏員の事務研究会開催改正規定其の他諸般事務の研究を遂げ正午散會

◎萩郵便局昭和六年二月 分事務取扱狀況

△印は減

通信

◎萩郵便局二月中の行事

二月一日 森岡廣島逓信局書記服務狀況調査の爲來局全日歸廣

三日 遞信講習所入所試験執行の爲下關遞信講習支所より下渡書記來局四、五の兩日試験執行

種別	前年取扱數	本年取扱數	増減數
書留、價格引受	三、〇六四	三、〇五九	△
表記通常郵便物	四、八六八	五、四四一	△
小包郵便物	一、九七三	一、九四四	△
引受	三、二九七	三、二八〇	△
配達	二、九七七	二、〇九六	△
電信	四、一七二	三、九三三	△
電報	二、二七三	二、〇二二	△
中繼	一、一三五	一、二五八	△
爲替振出	金口數 二五、〇九三	金口數 二五、〇五九	△
爲替拂渡	金口數 二、二四	金口數 二、三〇〇	△
貯金預入	金口數 二、九三	金口數 二、七五九	△
貯金拂戻	金口數 六七九	金口數 八八五	△
保險契約申込	金額 三九、一〇〇	金額 六三、六〇〇	△
保險料徴收	口數 二、〇七六	口數 二、二五四	△

種別	前年	本年	増減
年金契約申口數	六、九七五	七、六〇〇	△
年金掛金徴収	金額 二七九、七四〇	金額 二七九、七四〇	△
年金掛金徴収	口數 一	口數 五	△
年金掛金徴収	金額 三、三七〇	金額 四二、三〇〇	△
年金掛金徴収	金額 三、三七〇	金額 三六、八五〇	△

土木交通

●建造物制限規則施行地域

本町内に於ける左記の地域は明治四十一年十月山口縣令第六十一號建造物制限規則を施行せらるゝに付、建物新築せむとす者は所轄警察署の認可を受けることを要す。

大字川島、土原、橋本町、御許町、唐樋町、江向、河添、平安古町、吳服町、堀内、南片河町、北片河町、南古萩町、吳服町一丁目、吳服町二丁目、油屋町、樽屋町、今魚店町、古魚店町、塩屋町、細工町、津守町、北古萩町、濱崎新町、濱崎町、東濱崎町、古萩町、吉田町、熊谷町、上五間町、下五間町、瓦町、西田町

●失火

二月二十一日午後一時十分頃目代區山根兼藏氏宅より出火全焼と同時に一丁餘を隔てたる同區吉村源次郎氏納屋に飛火し忽ち本屋に延焼同家屋を全焼せり公設消防組各私設消防組共時を移さず出動し午後二時過ぎ鎮火したり原因は山根氏方同居人の炬燵の不始末より起りたるものなり

二月二十八日午後十一時四十分頃濱崎町第二區湯島セイ氏方風呂場より出火したるも附近の者逸早く駆け付け大事に至らずして消止めたり原因は風呂場の窯火の不始末に因るもの、如し

●弔慰料贈與

一月十日の暴風雪に因り第三第七第八鱗成丸乗組員中遭難死亡及行衛不明となりたる左記の者に對し愛

社會事象

●中ノ倉婦人會總會

二月二十七日中の倉公會堂に於て同區婦人會第七回總會を開催、國歌合唱、詔書奉讀、會計報告其の他諸般の協議を爲し香川先生を聘して第一の柱國の御柱御柱詣で家族團体參詣。第二の柱釋尊四分計世界最古長者三井家の三本柱人物、勤儉、準備金。第三の柱人物共同訓練。勤儉澤庵和尚拂子の讚。生活改善石田梅巖嫁の教へ等々懇切なる講話を長時間倦むことなく謹聴せり此の日多數の會員は子供連れ團樂たる家庭的集合の下に晝食を共にし餘興の福引の外

東田町、惠比須町、米屋町、春若町、今古萩町、大字椿東（但し椿東の内船津、松本市、鶴江、香川津、小畑浦、後小畑、越ヶ濱に限る）、大字山田（但し山田の内、奥玉江、川屋敷、玉江浦倉江、中渡に限る）、大字椿（但し椿の内、椿町、金谷、濁淵、雜式町に限る）

國婦人會山口支部より夫々弔慰料を贈與せられたり

- 越ヶ濱第四區 末武重吉
- 鶴江第一區 木村龜真
- 同 第一區 中村龜吉
- 同 第二區 家田彦次
- 同 第二區 松本林藏
- 濱崎町第二區 大草作榮
- 鶴江第一區 村木正一
- 浦小畑第一區 岡清一
- 浦小畑第二區 河村末一
- 同 第一區 岡武之進
- 鶴江第一區 關屋國松
- 同 第一區 吉村三男
- 朝鮮人 金在漢
- 同 李石連
- 同 揚明振
- 船主鶴江第一區 藤山正助
- 同熊谷町區 藤山清太郎

◎公人及私人

- ◎三村順輔氏、瀧口明木村長、岡崎川上村長、溝部佐々並村長は鐵道問題に付二月三日町衙に林町長を訪問
- ◎來島歩兵第十四聯隊附陸軍歩兵少佐は展幕歸郷の砌二月四日町衙に林町長を訪問
- ◎花崎遞信局書記は自作農創設の件に付二月十二日町衙に林町長を訪問
- ◎原田本縣屬は椿、春日、志都岐山、松陰、住吉神社の各祈年祭に參向の爲二月二十日來萩
- ◎淺野大阪朝日新聞社門司支局員は史蹟見學の爲二月二十五日來萩
- ◎中村兵庫縣地方事務官は大萩合併の現状並萩町の區長制度視察の爲二月二十六日來萩
- ◎塚越小郡高等女學校長は史蹟見學の爲生徒四十名と共に二月二十六日來萩

目代區 山根兼藏
同 吉村源次郎

◎山本第一艦隊司令長官は大塚副官と共に史蹟見學の爲三月二十八日來萩

衛生

◎昭和六年二月中死亡者埋火葬別

二月		中		一月迄		計	
火葬	計	女	男	計	女	男	計
		一	二	一	九	二	三
		一	九	二	八	四	七
埋葬	計	女	男	計	女	男	計
		三	一	四	七	八	一
		六	三	九	四	二	一
		九	三	二	八	七	一

◎昭和六年二月中傳染病患者數

病名	二月中	死亡者數	一月迄	計
デフテリア	1	1	1	1

◎二月中死亡者病類別

病名	二月中	一月迄	合計
結核性患者	7	9	16
腦出血及腦軟化	5	4	9
心臟の器質的疾患	1	1	2
急性氣管支炎	1	1	2
慢性氣管支炎	1	1	2
胃の疾	2	4	6
腎臟炎	1	2	3
産褥熱	1	1	2
肺炎及氣管支肺炎	8	1	9
呼吸器の疾患	1	1	2
老衰	3	2	5
感冒	2	7	9
腸管閉塞	1	1	2
腦膜炎	1	1	2

糖	尿	糖	尿	糖	尿	糖	尿	糖	尿
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

●氷枕のあて方

◆熱ある児供に母親の注意

子供が病氣にかゝつた場合に、その病氣の軽い重いを判断するには、熱の高低と脈搏の多少によらなければなりません。而してその程度によつてそれ／＼手當の方法も變つて来るわけです。三十七度から八度位までの微熱でしたら冷水に浸したタオルで冷やせば充分ですが、それ以上卅九度とか四十度にも昇つた場合には必ず氷嚢と氷枕で冷やさねばなりません、しかし幼児の場合には直接に氷嚢などあてる事はよくありません氷嚢にしる氷枕にしるいづ

れも必ず布に包んで當てるべきで、そうでないと皮膚を痛めます。それからこれ等の氷嚢法をあまり長くつづけてやりますと、その部分が痛み出し、やゝもすると皮膚が凍傷に陥る事があります殊に注意すべきはまだ物も言へない赤ちやんの場合で大人の考へではこれ位の時間と思つて居るうちに冷へ過ぎて大へん危険ですから、常に検温して體温の下り具合を監視せねばなりません、氷嚢は又熱を下げるばかりでなく心臓の興奮した時など心臓と頭部に當てるど、興奮を鎮め、脈搏の数を少くします、しかし心臓部の氷嚢は兎角冷へ過ぎて危険ですから三四歳以上の子供にだけするのが安全です、勿論この場合も體温の監視が必要です。

●最も安價な健康法

毎朝生水を呑むに限る

俗に生水のすきな人は健康だといはれてをりますがこれは生水をのむ人は體内の新陳代謝をさかんにし水に含有されてゐるマグネシウムやカルシウムをくして血色をいき／＼とさせます、そこで生水は最も安價な健康法ともいふべきですが、ただ注意しなければならぬのは生水といつても、むろん冷淨な水でなければならぬわけで、川の水や不完全な井戸の水は不純物を多くふくみ時には恐るべき傳染病菌がひそんでゐることがあるので、非常に危険であることを知らなければなりません

●豆腐禮讚

日本人向きの好適な食べ物として

お豆腐は我國の副産物の一として昔からあります、このお豆腐の成分を申しますと豆で造つた肉と申すよい位で、鳥や獸や魚の肉や卵は大體蛋白質ですが、お豆腐も亦植物性の蛋白質です肉類は一般に高いので經濟上有難くありませんがお豆腐はこれに反して安くどこでも手に入るので日本人の經濟食として必要缺ぐべからざるものです肉類の過食は體によくなく中年以後はあまり食べない方がよろしいのですそれは肉類を餘計に食べれば腎臓を刺戟し、血管を

自然に攝取するためです、一體人體の三分の二は水分より成り、普通一人一日に約一升三四合、夏季には二升乃至三升五合の水を必要としてゐます、これらの水分は大部分食物の中にくまれば、或は食物といつしよに體内に入るのであつて、茶や湯をのむのもその不足分を補ふために外ならないので水は體内にできる老廢物の排せつを容易にして血液を清淨ならしめる効力があるので毎朝起きた時に一ぱいの水をぐつとのむと、食物の消化を助けると共に便をよくします、近頃生水をのむことが宣傳されてゐるのもこの意味からですが、殊に寒中の水は細菌の数が最も少い上に有効な礦物質を多分に、しかも新鮮な状態にをいてふくんでゐるので、非常に効力があるといはれます。古書にも、寒三十日の間、毎朝水を少しづつ、のめば萬病の豫防となり、特に眼や齒を丈夫にするといふことが記されてゐますが、便秘しやすい人は毎食事三十分程前と就寝前にコップに一ぱいの水をぐつとのむと便通をよくし、普通の健康體の人でも毎朝起きた時に一杯の水をのむ習慣をつけると、氣分を爽快にし、食物の消化を助け便通をよ

悪くし、肝臓に影響して體を悪くするからでありま
す。殊に田舎や山間に住んでゐる人達は野獸の肉や
湖沼からとれる魚肉を食べたり、塩物の魚を食べる
にしてもその量は極めて少いにもかゝらず、より
勞苦に耐へ朝から晩まで働いてゐるし、又禪宗のお
坊さん達の中には今でも精進物ばかり食べて肉食を
せず、それでゐる偉大な頭腦と旺盛な精力體力を持
つてゐる人が多いのです。これは不思議の一つとさ
れてゐた時代もありましたが、だん／＼研究して見
ると、何も西洋人のように肉食をしなくても植物性
蛋白質の代表物である豆を食べるか、或は豆腐や味
噌といった豆でこしらへたものを食べてゐるからで
あつて、決して蛋白の不足を來するものでないとい
ふことが分つてきました。豆腐は肉よりも消化がよ
いものとされてゐますが食物といふものは軟かいか
ら消化がよく硬いから悪いと簡単に云へるものであ
りません。お豆腐はなるほど軟かい、丁度砂糖が水
にとけるやうに、腸の中で豆腐が水にとける成分に
まで變化しなければ、本當の消化といへないのです
から、素人方の考へてゐるほど消化のいゝものでな

いのですが、豆よりは消化吸収は甚だいゝものな
です。だが少しお腹工合の悪いときなどはたぐさた
べたりしてはいけません糖尿病の人は米や麥及芋類
などを餘程制限されますが、その不足分を補ふため
にはこのお豆腐があるのです。又お豆腐は腸の毒を
消すとも云はれてゐます、殊に二日酔ひの時などお
豆腐を食べるとよいと云ひならはせられてゐます。
熱をもつて腫てゐるところにお豆腐と里芋または山
芋などを煉るかうごんこと煉るかして貼ると熱をと
つて腫が引き痛みがとれると云はれ、素人療治によ
く用ゐられてゐます

人事

萩町の人口動態

婚姻 離婚 出生 死亡 死産
昭和六年二月中 五二 七 一二三 六三 五
一月中の累計 一〇六 一〇 二七二 一七三 二

◎一月中旬出生届出の者

○印は萩町に本籍なき者

區名	戸主の氏名	生年月日
大屋	久藏 孫 好川 時枝	昭和五年六月五日
川島	貴和長女 大見 和	十月九日
笠屋	道造二男 佐々木育造	同 一月二十五日
浦小畑	市藏四男 井町 末廣	同 廿六日
木間	龍一五男 末岡 五郎	同 廿三日
津守町	文七孫 吉松 繁男	同 廿八日
中ノ倉	純介孫 金子 道子	同 廿五日
米屋町	直治六男 賀田 信雄	同 廿四日
東田町	順二二男 佐々木利夫	同 廿五日
惠美須町	芳太郎二女 戸倉悦子	同 廿九日
河添	敏介長男 天野 章	同 廿五日
浦小畑	初二女 上田ユキ子	同 廿五日
濱崎町	彦輔 孫 永富 清	同 廿八日
熊谷町	五郎一孫 上利美年子	同 廿八日
前小畑	利七六男 泉 猛	同 二月三日

濱崎新町	幸一四女 石津 常子	同 三十日
同	辰次郎孫 新宅 文榮	同 三十日
土原	虎吉長男 伊藤 博夫	同 廿五日
江向	亮 長女 正木 綾子	同 廿一日
平安古町	幸三郎孫 末武 幸雄	同 廿一日
北古萩町	光彦三女 岡村 玲子	同 三十日
椿町	長石甥 横田 司健	同 二月二日
土原	譽一二女 村田 睦子	同 同六年一月五日
濱崎新町	榮次郎長男 山城勝治	同 廿九日
越ヶ濱	梅太郎孫 石飛 昭代	同 二月一日
越ヶ濱	勘七孫 中野 三重	同 一月三十日
下五間町	竹五郎孫 松本美代子	同 二月一日
平安古町	留穂二女 溝部 淑子	同 一月三十日
椿町	良市二男 桑原 朝一	同 二月一日
上野	胤次二女 田村ヨネ子	同 一月三十日
土原	龍三三女 小野 瑩子	同 二月一日
堀内	省三姪 井上 佑子	同 二月一日
香川	房次郎孫 阿武 利夫	同 二月一日
川島	八十吉姪 藤津 玲子	同 二月一日
中津	久八孫 浦久ヨシ子	同 一月廿九日
櫻江	小源吾孫 笹村 幸子	同 二月三日

熊谷町	六郎三男	末永	知之	同	四日	越ヶ濱	五郎吉長女	兼本千惠子	同	七日
奧玉江	熊一長男	今田	久信	同	一日	船津	竹太郎孫	原田	忠良	同
河内	市熊二男	齋藤源太郎	同	同日	六日	河添	幸槌四男	田村	祐治	同
稚原	義太郎三男	阿武義三郎	同	同日	六日	椿	多一六男	阿部	忠良	同
東濱崎町	源一二男	松浦	由男	同	三十日	東田町	秀一三男	篠原二三夫	同	二十八日
雜式町	ウメ孫	田坂	圭子	同	五日	倉江	伊勢松二男	角屋	正行	同
小原	助右工門孫	伊藤	良春	同	卅一日	同	同孫	藤田千代子	同	九日
川島	壽吉三男	石丸	嘉作	同	二月三日	越ヶ濱	又藏四男	三芳	順治	同
木部	倉之進孫	國守	節子	同	四日	中津江	政太郎孫	小林	等	同
香川津	豐二男	伊藤	勇	同	一月卅一日	川屋敷	靖次孫	山田嘉壽子	同	八日
瓦町	類造孫	○石山	徹哉	同	二月一日	中ノ倉	興市孫	水野	昌子	同
川島	寶策甥	○安部	昭夫	同	同日	青海	好五郎孫	榎谷	巖	同
笠屋	トミ孫	中村登美男	同	同日	江向	喜代藏孫	友廣	陽子	同	一月十七日
鶴江	實長女	上村美紗枝	同	同日	香川津	新一二男	村木	忠重	同	二月三日
平安古町	新一長男	中村	達男	同	東濱崎町	辰藏四男	岸田	嘉六	同	五日
河添	吉兵衛孫	楊井	俊雄	同	江向	無逸孫	伊藤登美子	同	同日	廿一日
吳服町	イネ孫	吉屋	眞治	同	上野	誠長女	國重	知子	同	二日
鶴江	卯右工門二女	岩崎房江	同	同日	北古萩町	カネ孫	清須	久枝	同	三十日
平安古町	麟次郎三女	藏掛芳子	同	同日	中ノ倉	久兵衛孫	寺戶	永久	同	二月九日
玉江浦	吉松二男	山田	義夫	同	中津江	幸槌二女	山根セツコ	同	同日	十一日

無田ヶ原	市熊七女	三浦	勝子	同	七日	濁淵	英一長女	龜屋	利江	同	十七日	
唐樋町	百合藏孫	黒瀬	勝	同	十日	越ヶ濱	寅藏孫	末武	忠	同	十二日	
堀内	嘉市郎曾孫	河村	幸子	同	十四日	濱崎町	源次郎同	長谷川益子	同	十五日		
上五間町	文治孫	古屋	福松	同	九日	玉江浦	治三郎同	藤屋惠美子	同	同日		
沖原	正七長男	宗村	憲一	同	十一日	濱崎町	孫一長男	大森	市郎	同	同日	
小原	金藏姪	岩崎	朝子	同	十二日	越ヶ濱	義治庶子女	仁保	市乃	同	十日	
土原	正男二女	神村	享子	同	十七日	香川津	貞槌庶子男	○田中	忠夫	同	十三日	
古萩町	重槌孫	岡田	祐子	同	同	東田町	清一長男	藤原	清男	同	十二日	
山田	末松四女	野村トシ子	同	同	同	松本市	幾次郎長男	藤田	豐	同	三日	
金谷	忠雄從弟	河上	勤	同	十一日	前小畑	マツ子私生子男	荒川宗義	同	同日	八日	
沖原	友一二女	村田	和子	同	十四日	雜式町	新二長女	山本	浩子	同	同	五年十月二日
堀内	隼雄長男	小島	一介	同	十一日	春若町	タケ姪	高田	春枝	同	同	六年二月廿五日
川島	三平孫	藤末	陽子	同	十三日	鶴江	ウメ孫	村木	知幸	同	同	二月十七日
上野	龜次長女	林	利子	同	七日	中ノ倉	幸三孫	末永	光彦	同	同	十四日
米屋町	修吾二男	村田	哲郎	同	十日	平安古町	徹庶子男	中村	徹夫	同	同	十五日
浦小畑	十吉長女	土井	愛子	同	十七日	堀内	七郎右工門孫	中田茂雄	同	同	同	十日
北古萩町	吉三三男	松浦	三千年	同	十九日	椿町	千槌	同	中原	章一	同	廿三日
江向	雄輔孫	林	英夫	同	廿二日	玉江浦	龜藏	同	角倉	敏子	同	十七日
東濱崎町	權藏孫	國光	嶺子	同	十日	奧玉江	勘藏長男	松野	正吉	同	同	十六日
西田町	精一長男	山口	光正	同	十五日	平安古町	美代藏長女	井關美代子	同	同	同	十二日

香川津	象藏	孫○岩谷キミ子	同	十六日		
南古萩町	二良	同	土井登久惠	同	九日	
藤ヶ瀬	奥右工門孫	岩本	久子	同	一月廿五日	
玉江浦	七五郎	同	國守	昭二	同	二月十四日
河添	馨	同	玉置	清	同	十六日
小原	仙一二男	下瀬	淨博	同	同	廿二日
下五間町	秀雄長男	若松	丈二	同	同	廿一日
奥玉江	富亮四女	吉松	和子	同	同	十一日
鶴江	清藏從弟	石川	繁	同	同	十四日
西田町	萬槌	孫	永久	忠	同	十四日
玉江浦	鶴吉	同	玉一	二郎	同	廿三日
同	千年長男	松井	孝矩	同	同	十八日
前小畑	正一二男	廣屋	幸作	同	同	十一日
川島	時彦	孫	長井	治	同	十二日
下五間町	鶴松長女	井町	マ子	同	同	十七日

●二月中死亡届出の者

○印は萩町に本籍なき者

古萩町	留三郎妻	吉屋	チヨ	昭和六年一月九日		
堀内	園吉二女	吉屋	惠子	同	卅一日	
平安古町	貞藏	婦	久保田	チヨ	同	廿八日
雜式町	正吉	母	柳井	ウメ	同	二月二日
浦小畑	茂喜	母	末永	タケ	同	十日
金谷	戸	主	中原	太八	同	十四日
津守町	太三郎三女	田中	ヨシ子	同	同	十三日
濱崎町	戸	主	大田	竹松	同	十四日
瓦町	雷震妻	君山	イト	同	同	十五日
惠美須町	幹亮	甥	田村	正一	同	二月卅一日
船津	耕介長女	岸	博子	同	同	二月二日
河内	松二郎二女	杉山	シズエ	同	同	四日
越ヶ濱	甚吉母	松永	ヨシ	同	同	五日
上五間町	伊三郎婦	磯村	トミ	同	同	五日
奥玉江	伊代藏父	吉岡	伊助	同	同	五日
川島	亡誠三妻	野山	ヨネ	同	同	五日
北古萩町	戸主○綾部	千代之介	同	同	同	六日
堀内	莊介養父	立野	圭一	同	同	六日
藤ヶ瀬	戸	主	大田	十吉	同	二日
土原	道平	弟	加藤	三良	同	四日

河添	戸	主	鈴川	信興	同	一月卅一日
濱崎新町	政雄	姉	中原	マツ子	同	五日
堀内	次郎	妻	津森	チヨ	同	二月六日
川島	戸	主	藤山	音熊	同	八日
木間	孫市	孫	藤井	勝美	同	九日
今魚店町	直藏五女	河野	サダ	同	同	十日
濱崎新町	留市庶子女	三浦	スミヨ	同	同	九日
土原	太吉二男	山根	幸夫	同	同	八日
平安古町	麟次郎三女	藤掛	芳子	同	同	五日
椿町	太郎吉長男	田中	豊	同	同	十二日
濱崎新町	五郎吉三女	小野	惠子	同	同	二月七日
木間	太一	姪	植田	和子	同	二日
山田	延介	弟	田村	敏介	同	一月廿八日
濁淵	俊男	父	羽鳥	市熊	同	二月十三日
浦小畑	太郎右工門祖母	上田	ツヤ	同	同	廿六日
北古萩町	正一	姪	岡山	華子	同	九日
濱崎町	隆亮	母	守永	ツル	同	四日
江向	震太郎長男	境	在一	同	同	十日
川島	恭輔四女	河村	愛子	同	同	五年一月七日
越ヶ濱	三藏四女	井町	静乃	同	同	六年一月五日

前小畑	千代藤六男	波多野	光雄	同	十六日	
越ヶ濱	傳一二男	上村	平八郎	同	十一日	
木間	勝五郎妻	伊藤	ウメ	同	十七日	
古萩町	戸	主	竹重	平治	同	十三日
濱崎新町	市松四女	吉村	雪江	同	十八日	
川島	長太郎妻○岡本	トモ	同	同	一月廿六日	
河添	戸	主	山縣	次良	同	廿七日
河添	春雄妹	山縣	京子	同	同	廿七日
西田町	政子祖母	土肥	タケ	同	同	二月十七日
倉江	龜介長女	江川	利子	同	同	廿二日
船津	源吉三女	橋本	ハルコ	同	同	二十日
春若町	一重叔父	尾崎	榎太郎	同	同	二十日
濱崎新町	戸	主	河野	直藏	同	廿一日
江向	同	同	厚東	操	同	十七日
上野	初治郎孫	原田	弘	同	同	十八日
前小畑	忠一	母	阿武	タツ	同	廿三日
船津	常吉	妻	厚東	ヨシ	同	廿四日
熊谷町	戸	主	安藤	作次郎	同	同
倉江	一	長男	吉山	正雄	同	同
今古萩町	公一	母	大草	ヨシ	同	同

●二月中出入寄留者數統計

御許町	重二郎五女	中田	竹子	同	廿六日		
鶴江	惣一二男	福永	政治	同	廿一日		
玉江浦	鶴吉孫	玉	一二郎	同	廿六日		
中ノ倉	戶主	原田	吉平	同	廿六日		
同	一弟	大岡	武	同	廿二日		
江	向	傳	二男	青木	秀一	同	廿六日

出寄留	三九人	一七人	五六人	一一二人
退去	一一	二	一三	二四
計	五〇	一九	六九	一三六
入寄留	五一	四二	九三	一七二
復歸	一	二	三	七
計	五二	四四	九六	一七九

●二月中出寄留及退去届 出の者

○印は退去者

區名	戸主の氏名	出寄留又は退去年月日
南古萩町	十太郎孫○永田	靖子 昭和六年二月一日
堀内萩中學	直二男○間	直臣 二月六日
校寄宿舎	銈二三男○菊地	朝雄 全
全	敏道弟○原	嘉道 全
全	慧海弟○波多野	恩曉 全
全	政一三男○林	正二 全
全	忠太郎五男○織田	文明 全
全	彦五郎五男○大山慶太郎	全
全	五兵衛長男○竹林	義雄 全
全	只一長男○蒲	一元 全
全	百松孫○柴田	重行 全
西田町	勝武三女	青海登志枝 昭和五年十二月十日
木間	國増弟	善生 俊男 全十二月廿七日
川島	熊次郎五男	永安 馨 昭和六年二月廿五日
平安古町	安正弟	栗屋 則道 全一月二十五日
西田町	龜吉孫	長嶺正一郎 全一月十五日
津守町	龜一弟	坂本 清一 全一月二十八日
河添	敏介長男	天野 章 全一月五日

濱崎町	雄次弟	齋藤	保市	全	一月二十九日	
霧口	戶主	○山田	健一	全	一月二十七日	
御許町	戶主	白石	明晴	全	二月五日	
全	妻	全	ハッヨ	全		
全	長男	全	久晴	全		
川島	戶主	○堀	スヲ	全	一月二十日	
熊谷町	糸藏四男	三好	八三	全	一月二十七日	
今古萩町	戶主	後藤	イチ	全	一月三十日	
土原	龍三三女	小野	瑩子	全	二月一日	
越ヶ濱	戶主	吉田	光藏	全	二月六日	
全	妻	全	イネ	全		
平安古町	信次三女	山崎	萬喜子	全	二月七日	
椎原	戶主	田中	直吉	全	二月七日	
江	向	勇二孫	上田	健一	全	二月二十六日
沖原	戶主	三上	米藏	全	二月十二日	
全	繼母	全	サト	全		
江	向	定輔孫	藏田	信雄	全	二月十二日
雜式町	文亮二男	柳田	次郎	全	二月二十九日	
濱崎町	多平孫	中本	美子	全	二月十三日	
平安古町	秀親三男	吉富	三夫	全	一月三十日	

江	向	和順長女	有田	和子	全	一月二十五日
全	奧玉江	戶主	横山	喜一	全	一月十四日
全	妻	全	全	芳子	全	
全	長男	全	全	泰定	全	
全	二男	全	全	節義	全	
全	長女	全	全	嘉元	全	
全	三男	全	全	重忠	全	
全	省一長女	光藤	博子	全	二月十一日	
全	樽屋町	新一二男	村木	忠重	全	二月十四日
全	香川津	半吉弟	上田	彦熊	全	二月十六日
全	浦小畑	戶主	古屋	文治	全	二月十日
全	上五間町	長男	全	朝一	全	
全	全	婦	全	ワイ	全	
全	全	孫	全	福松	全	
全	平安古町	繁成長男	吉村	繁正	全	二月十四日
全	中ノ倉	金太弟	金子	音熊	全	二月九日
全	瓦町	德三四女	津村	芳江	全	一月二十日
全	香川津	伊作四男	小泉	信四郎	全	一月卅一日
全	土原	正男二男	神村	享子	全	二月十七日
全	濁淵	要介三男	村岡	鐵一	全	二月二日

堀内	チトセ養子	野村	弘久	全	二月十日
川屋敷	戸主	田村	季雄	全	二月十八日
江向	雄輔孫	林	英夫	全	二月十二日
東田町	秀一三男	篠原	二三夫	全	二月九日
平安古町	徹庶子男	中村	徹夫	全	二月十九日
越ヶ濱	戸主	仁保	義治	全	二月八日
倉江	庶子女	全	市乃	全	二月二十日
東田町	文七妻	梶屋	キノ	全	二月廿三日
奥玉江	宗一長女	秋山	百代	全	二月二十日
濱崎新町	六三郎二男	白石	重市	全	二月六日

○印は復歸の者△印は町内轉寄留の者

出の者

區名	世帯主と續柄	氏名	入寄留又は復歸年月日
上五間町	世帯主	村越道太郎	昭和六年三月二日
全	妻	全	喜久能

橋本町	世帯主△溝部	ナツ	全	二月一日		
全	二男△全	滿	全			
全	三男△全	芳和	全			
全	四男△全	利男	全			
全	長女△全	多美江	全			
全	二女△全	登美子	全			
東田町	世帯主△秋田	シケ	全	二月九日		
全	長女△全	カツ子	全			
全	世帯主	岡部	政男	全	二月二日	
全	母	全	スエ	全		
全	弟	全	昂二	全		
全	世帯主	村上	ヨシ	全	二月一日	
全	ヨシ二男△全	良助	全			
全	夫ノ庶子△全	廣助	全			
全	縁故者	山根	スズ子	全		
全	世帯主	高屋	カネ	全	一月廿八日	
全	二男	全	壽松	全		
全	前小畑	信之進養子	野村	茂	全	二月八日
全	香川津	世帯主	樋口	末次	全	二月十三日
全	妻	全	キクノ	全		

全	土原	三男	全	秀哉	全	二月九日	
全	妻	△全	ツネ	全			
全	孫	△全	かほる	全			
全	世帯主	末益	鶴一	全		二月八日	
全	妻	全	ヨシヨ	全			
全	二男	全	清志	全		二月二十日	
全	米屋町	世帯主	横峰	善藏	全	二月十日	
全	妻	全	乙羽	全			
全	南古萩町	原田英太郎	縁故者	三須	義治	全	二月一日
全	東濱崎町	弘法	世帯主	横山	香熊	全	
全	寺島續二番地	世帯主	全	ツル	全	二月九日	
全	全	姉	全	スミ	全		
全	川島	世帯主△藤津	友三	全		二月十日	
全	妻	△全	キク	全			
全	長男	△全	正則	全			
全	長女	△全	信子	全			
全	二男	△全	良忠	全			
全	二女	△全	玲子	全		二月三日	

全	浦小畑	長	男	全	重次郎	全	二月九日
全	唐樋町	世帶主	藏本	敏德	全	二月九日	
全	全	妻	全	染子	全	四日	
全	全	長	男	全	孝美	全	二月九日
全	木間	松一長女	○川畑	トセ	全	一月十七日	
全	南片河町	傳一長女	○黒川	壽美	全	二月十一日	
全	船津	世帶主	△井原	豊之進	全	二月十一日	
全	全	長	男	全	萬吉	全	二月十一日
全	全	婦	△全	マツ子	全	二月十一日	
全	全	孫	△全	哲	全	二月十一日	
全	全	緣故者	△五味	春雄	全	二月十一日	
全	全	全	西	ナミ	全	二月十一日	
全	唐樋町	青原イチ孫	永田	能朗	全	二月二十日	
全	江向	世帶主	△吉原	正士	全	二月二十日	
全	全	妻	△全	シカ	全	二月二十日	
全	全	長	男	全	正敏	全	二月二十日
全	全	弟	△全	悟	全	二月二十日	
全	全	妹	△全	マツモ	全	二月二十日	
全	米屋町	光國貞太郎孫	西岡	凡夫	全	廿八日	

全	橋本町	世帶主	櫛部	八朗	全	十日	
全	全	妻	全	ツル	全	二月十三日	
全	全	長	男	全	徹	全	二月十三日
全	全	二	男	全	正行	全	二月十三日
全	下五間町	瀧幾三郎	竹内	キノ	全	二十日	
全	全	内縁ノ妻	全	一夫	全	二十日	
全	全	緣故者	全	勇熊	全	廿四日	
全	椿町	世帶主	岡崎	文代	全	廿四日	
全	全	妻	全	君江	全	二月十一日	
全	全	長	女	全	孝子	全	二月十一日
全	全	二	女	全	八郎	全	二十日
全	米屋町	世帶主	金子	寛燦	全	二十日	
全	全	二	男	全	喜久子	全	廿六日
全	全	長	女	全	豊	全	廿六日
全	上五間町	世帶主	△松富	トセ	全	廿六日	
全	全	養	子	△全	全	廿六日	

受刑者

萩町に本籍を有する者にして關係司法裁判所より受刑の通知を受けたる者左の如し

昭和六年二月中

罪名	現住ニ	現住セ	計	一月以	前年
賭博	1	1	2	1	1
詐欺	1	1	2	1	1
竊盜	1	1	2	1	1
機船底曳網漁業	1	1	2	1	1
取縮規則違反	1	1	2	1	1
傷害	1	1	2	1	1
失火	1	1	2	1	1
賣藥法違反	1	1	2	1	1
暴力行為等處罰	1	1	2	1	1
違反	1	1	2	1	1
印紙税法違反	1	1	2	1	1
業務上過失致死	1	1	2	1	1
牛乳營業取縮規則違反	1	1	2	1	1
度量衡法違反	1	1	2	1	1
阿片及麻酔劑取縮法違反	1	1	2	1	1
差押標示損壞	1	1	2	1	1

雜事

地久節奉祝

財團法人萩婦人會顧問 守重 哲雄
 今日是我皇后陛下第二十九回の御誕辰、我等八千万
 オール臣民として謹みて御祝ひ申し上げます、就中四
 千万の女性達は別けても一段恭しく御慶び奉り、且
 又たかうした佳節に當りて夫婦道並に母性愛の尊重
 さを深く味はねばならぬ、乃で私は左の二項に分ち
 て所感を陳へ奉祝の微衷を表する。

天節目に就て

抑も天長地久の文字は元と老子に出でをる、而して
 天長地久は両陛下の御降誕日の節目に御定めあらせ
 らる、斯く両節目が其の儘を夫婦道のモットーとし
 て守らねばならぬと私は感ずる、夫れ天は高く覆い

地は低く載す、之を天地位とも、亦たは覆載間とも云ふ、天は高くて尊く、地は亦た低くて貴い、高きが故に尊い低くければ則ち卑いと云ふ理由は毛頭無い、假令万が一にも天と地とが其の位を顛倒せんか俗に天地がヒツクリカヘッタと言ふ如く、我等人間の生活も万物の生存も絶対不可能となる、所謂天地位して万物育生とは宇宙の眞理自然の法則であらねばならぬ、かうした意味に於て 天皇陛下は天の徳皇后陛下は地の徳所謂乾坤徳と申して其の御徳を鑽仰し奉る、乃ち今日の地久節は其の意味を裏付けてある節目である、天皇皇后共に尊稱して陛下と號し、而も行幸と行啓高御座と御帳臺等に其の名稱自ら別がある、深く味はねばならぬ。

惟みるに、我等男女は質から云へば人格平等、男尊女卑に非ず、亦た女尊男卑にも非ず、而も其の性の異なると共に自ら差別があらねばならぬ、傳へ聞く、菅原道真が延喜帝の保傳として創作せし彼御伽噺は翁は山に芝刈り媼は川に洗濯云々は蓋し能く男女の天分と情味を描寫し寄託してある、山は陽川は陰そこで陽の山には翁が芝刈り、陰の川には媼が洗濯、其の各々の個性づけられたる趣を表徴し、夫は夫らしく婦は婦らしく、否な夫婦だけでなく、男女としての天分が斯くあらねばならぬ。

然るに現代世相の一部を眺むれば婦人にして其の天分を忘れ妻として家庭を離れ、徒らに虚榮に走りて外出に耽り、母として育児を擲ち、母性愛の尊重さを捨る等々、男女の道德軌範が混沌し將た破壊されんとする傾向がある、實に痛歎に堪へぬ、冀くは我皇陛下にをかせられてはイカニに御坤徳を御守りあらせられつゝあるか、今日の地久節の節目に就て其の裏付けてある意義を味はれ、別けても我等國民道德の特色を發揚せられんことを妻たる女性達に反省を望みて已まぬ。

地、母の日に就て

本日は神宮外苑日本青年館に於て、大日本聯合婦人會發會式が舉行され、「母の日」てふ名を揚げ全國的に呼びかけることになつた、實に時機に適したる美舉である、元來「母」と云ふ字は「女」と云ふ字の中に「子」と云ふ字を入れたので面白く出来て居る、即ち母たることが女性の貴重なる使命を意味づけるの

である。

其の母に就て之を二つに分けて見る、一には生理的の母、二には精神的の母、生理的の母は生殖能力を發現した即ち子を生みたる女性である、故に子を生まぬ女性を石女と名く世の多くの女性は子を生まぬ者は母てふ名も義もないやうに考へて居る、私は生理的に子を生ますとも人の生みたる子の母となりて生みの親と同様な感情を味い、子に對する親としての犠牲を盡すなれば立派な母と云はれる、單に子を生むだけなれば動物もみな生む、ソレだけでは人間としての母性價値はゼロだ。

大体、生むと云ふよりも子を能く育てると云ふことが大切である、徒らに子を生みて而も能く育てることをせねば社會を造るでなく社會を破るのである。之を要するに生理的と共に精神的を兼ね有する母こそ本當の母である、又た生理的母の能力がなくても精神的母、即ち人の生みたる子を育てる其の事が徹底したなれば其れが社會的母となつたのである、即ち眞實の母性愛を發揮せられよ。

終りに特に鑽仰し奉らねばならぬは我 皇后陛下は

己に國母陛下として照宮孝宮兩内親王に對して母性愛のベストを御盡しあらせられ、向きには久宮様御病氣の折の如きは實に言語に絶し思慮を超ゆる非常時に於ける母性愛の完全さを示し給ふた、若き女性達よ、かうした御坤徳を仰ぎつゝ、其の本分を守られたし、今や復た御慶事近きに迫り度みて御目出度御公報を御待ち申上げ奉る。

●萩附近梅の名所

藤本 瀧江 稿

一、中の倉人丸神社の梅

萩附近で梅の名所として最も古きは中の倉人丸神社である。神社を中心として清溪の兩岸一帯は梅林であつた花期は暗香芬郁溪中に充つ今其の名残りとして人丸神社境内に芭蕉翁の梅の句碑が残つてゐる。芭蕉翁は全國を遍歴しないが翁の句碑は日本全國に遍在してゐる、三好文學博士は全國の翁の句碑を調査し小冊子として居られる萩地方の句碑は私が調査して送つたのであるが萩には翁の句碑が數基ある人

丸神社の梅の碑、大照院の梅の碑、観音院の月の碑、多越神社の古池の碑、故中村致堂翁の舊宅の月の碑等である。丸神社の句碑は最も古く、石質といひ字体といひ實に古雅なものである。斯の如き梅の名所も歳移り世變り今は其の俤をも留めてゐないのは惜しいことである。

二、川上村立野の梅林

立野の梅林は明治二十三年の頃まで現存し、近在稀有の梅の名所で月ヶ瀬の觀があつた月ヶ瀬の梅は齊藤拙堂によつて著名となつた立野にも斯の如き文士があつたなら同じく世に顯れたであらふが惜しいことには隠れたる名所であつた、立野椿瀬は川上村の北端立野川椿瀬川(阿武川の支流)に沿ひ水色縹碧淵となり潭となり湍となり瀬となり以て梅咲く村を貫く其の香は全村に擴がり花は椿瀬より立野に入り兩川の兩岸山腹皆梅樹である私少壯の頃梅の立野を探る拙詩あり

探春向山路 風外暗香來

爲問樵翁語 溪南半是梅

山腹の梅岳寺は特に奇勝梅樹多しまた拙作あり

禪堂窓外雪始晴 乾坤一白四野清
身着鶴氅足郭履 欲探梅花出屋行
行踏銀沙林外路 葛屨痕回徐吟步
月寒溪水凍不流 凌寒半開溪梅樹
時望美人溪一方 淡妝齒艷動清香
不入師雄羅浮夢 芳唇一笑月昏黃

三、玉江の梅林(梅屋敷)

玉江の梅林は白水小學校舎の敷地並に其の上手より町の對岸は一面梅林にして玉江川の清流に暗香浮動し心なき行人も羅浮の夢に入り山隈水澗悉く白雪が薫つて居る月色清朗の夜杖を曳いて逍遙すれば枝々光を帯び暗香浮動疎影橫斜し身は既に畫中の景となる林中に小草舎あり大月庵と號す當時玉江の富豪前田吉右衛門氏の別墅にして主人亦風雅の士殊に文士と交り忠正公の御微行もあり澤宜嘉卿屢々優遊されたる史蹟であつたが今は夏蜜柑畑と化し昔の俤はなくなつた。

四、現時の梅の名所

今梅の名所としては殆んどないが唯大照院の梅林は梅樹も老齡特に聽松庵歴代の句碑の點在せる風致真

に俗界を離れたるの觀がある同院經藏前の冬至梅は大木にして十二月上旬より清香馥郁たり冬至梅は萩區裁判所前新堀川万歳橋の脇にもあり其の他にも所々にあるが大照院の程大きくない。

五、今後の梅の名所

私の愚案としては中の倉丸神社の梅林を復古したい。また大照院の梅林を擴張したい、其の他奥玉江楞嚴寺深一帯を梅林としたいと思ふ、楞嚴寺には雲谷等顔父子の墓、志士時山直八の墓もある。此の三大梅林を作つたら關西第一の梅林となり山陰線鐵道全通後多數の探勝者が來るに違ひはない。

● 昨年の今月今日

- 二月一日 今村侍從武官一行明倫小學校に於ける海軍志願兵検査施行を視察の午後四時二十二分萩驛より出發
- 三日 無田ヶ原公會堂落成式舉行
- 五日 午後六時半西田町區仲子福市方出火大事に至らず消止む

- 七日 阿武郡各町村衆議院議員選舉事務打合せを町衙に於て開催
午前二時吉田町喜樂館失火大事に至らず消止む
- 八日 阿武郡町村長集會を町衙に開催
造林組合並長門峽管理組合を町衙に開催
- 十日 本日より衆議院議員選舉船員不在投票執行
- 十一日 萩町善行者表彰式舉行
- 十二日 町會開催
- 十五日 區長集會を町公會堂に開催
- 二十日 衆議院議員選舉投票を明倫、椿西兩小學校椿東記念館光山寺の四ヶ所に於て執行
- 廿二日 町公會堂に於て衆議院議員選舉開票を行ふ

● 二月中萩町日誌

- 四日 建國祭行事協議會開催
(本月報登載外のもの)

- 九日 長門峡管理組合會開催
- 十一日 吏員拜賀式舉行
- 十二日 阿武郡町村徴兵事務協議會を町衙に開催
- 十五日 豫算編成に關し各課長協議會開催
- 十七日 第五師團經理部幹部演習を萩町に於て舉行
町内各小學校長集會を町衙に於て開催
- 二十日 縣社椿八幡宮、松陰神社祈年祭執行
- 廿一日 縣社指月山神社、春日神社祈年祭執行
陸軍記念日武道大會打合會を町衙に於て開催
- 廿二日 住吉神社祈年祭執行

●讀者の聲

本雜事欄の中に「讀者の聲」という項を設け主として萩町の公益増進に關し讀者諸彦より希望せらるる事項を一事項につき二十三字詰三行以内を限度とし之を掲載することとして居ます
匿名にても差支へありませんから振つて御投稿をお願い致します

無熱期の患者とは (前號の續き)

萩 東田町 木村 鍼灸科 院

即ち此の項に包括される第一種の患者は相當の發熱を以て發病したが既に合理的安靜療法と空氣療法その他病者の熱心なる攝生で熱だけは下り三七度以下に下つてから一二週間を経過したと云ふ病者換言すれば所謂恢復期に第一歩を踏み入れた者、尙ほ此の項に包括される第二種の患者がありますそれは檢温上發病の當初から全く無熱であるが肺部には確かに活動性の變化が認められ同時に瘦削貧血、食欲欠乏があり、疲勞を感じなほ病者は活動性の徴候をもつてゐると云ふ患者であります。此の状態は第一種の病者と略同一の病氣の状態であつて隨つてその療養法にも別段の差はないものであります肺病は發病當初多くは多少の熱を伴ふものであります、初め久しい間無熱で経過しつつ漸次病症が進行して有熱状態に移行するものもあることを知つてゐなければなりません、ですからこの項を説く養生法は

- 一、有熱状態から無熱状態に移つた病者。
 - 二、最初から無熱であるが肺には活動性病變をもつてゐる者。
- の二ツの状態に應用さるべきものであります。

●六、養生の要點

一般に云へば有熱期の養生は消極的方針を主とするものであります、絶對安靜と周到なる消極的衛生法で(以下次號)

外科・皮膚科・内科
血液検査日施行

久保外科醫院

萩町江向雜賀下筋
八院應需(電話七四番)

電話二六六番
萩町橋本

御旅館富田屋

萩史蹟
名勝

御案内
。すまいたい
。丁五りよ驛萩
。し佳望眺の畔川

宿泊料

奉大柄節時
廉低的仕

●納税のすゝめ

●本●月●の●税●金●は●田●租●第●三●期●分●、●所●得●税●第●四●期●分●、●及●全●附●加●縣●税●(●所●得●税●附●加●縣●税●中●に●は●本●税●金●壹●圓●に●付●金●參●錢●參●厘●六●毛●の●割●合●に●依●る●追●加●を●含●む●)●の●三●種●に●し●て●納●期●は●何●れ●も●月●末●で●あ●り●ま●す●、●例●に●依●り●左●の●通●出●張●徴●收●を●致●し●ま●す●か●ら●失●念●な●く●御●利●用●方●を●願●ひ●ま●す

三月二十八日

木間小學校
山田信用組合
椿信用組合
椿東記念館
積善信用組合雁島支部

昭和六年三月十五日

萩町稅務課

●敢て町産業技術員の御利用を望む

萩町の産業を増進する爲町の専屬技術員として普通農事一人果樹園藝一人林業一人水産業一人養蠶業一人の外に嘱託技術員として普通農事一人を置いております是等の人達は全く机上の仕事をする者では無く町内當事者各位の奉仕せらるゝ夫々の事業に就き實地の指導を爲すことを以て本體として居るものであり皆様が之を御利用下さればこそ萩町の生産業を進歩發達せしめ得るのでありますから今後は御遠慮なく關係の區長役場を経て其の旨をお申出下さい勿論町當局としては出來得る限り御希望に副はしむる様致します敢て御利用を望む

尙ほ右技術員の人達が町内を巡回の際皆さんの田畑園地其他林野等の施設振りにつき氣付きたる事項あるときは約業書大の厚紙に其の要旨を認め看易き所に之を掲げ置き御注意を促すこと致しておりますから右様御承知置きを願ひます

萩町 勸業課

稟告

萩月報の使命とする所は町民諸子をしてより多くが自己の町勢を理解し率て以て愛町の觀念を旺盛ならしめむとするに在り換言すれば本月報をして町民諸子の自治制度上に於ける常識として唯一無二の絶好讀物たらしめ相倚りて町將來の福祉を増進し所謂町格を向上せむことを冀ふものなり。

幸にして發行以來年と共に購讀者數を増加し編輯上其の責任の重大なるを感せらるゝにより今後は一層登載事項の蒐集選擇に力を注ぎ以て讀者各位の期待に副はむことを欲す之を諒とせられむことを。

萩月報編輯者

發行要項

- 一、發行 毎月一回十五日發行
- 一、購讀料 一ヶ月 金拾八錢(郵稅共) 六ヶ月分 金壹圓(同上) 一ヶ年分 金壹圓八拾錢(同上)

昭和六年三月十三日印刷
昭和六年三月十五日發行

編輯兼發行者 萩町長 林 勇 輔

印刷者 荒瀬 徳治

印刷所 山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地

發行所 山口縣萩町役場

取次所 藤川書店

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十一番地

萩月報

昭和六年三月十三日印刷納本
昭和六年三月十五日發行

昭和五年五月六日
第三種郵便物認可

毎月一回十五日發行 第三十六號